3D0804101B

取扱説明書

AD-RW900

CDレコーダー /カセットデッキ

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに
大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like).
An independent license for such use is required. For details, please visit http://mp3licensing.com.

MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.

Manufactured under license from Dolby Laboratories. Dolby and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Windows XP, Windows Vista and Windows 7 are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Macintosh and Mac OS X are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Other company names, product names and logos in this document are the trademarks or registered trademarks of their respective owners.

目　次

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜け	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは。** **機器の内部に異物や水などが入ったときは。** **この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災･感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
禁止	**電源コードを傷つけない。** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。** コードが破損すると火災･感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
分解禁止	**この機器のキャビネットは絶対に外さない。** キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない。 火災・感電の原因となります。
強制	**この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。** **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

強制	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のコードを使用する。** それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	ヘッドホンを使うときは、電源を入れる前に音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

次のページに続きます

注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
電源プラグをコンセントから抜け	**移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

注意 乾電池に関する注意

禁止	**乾電池は絶対に充電しない。** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

注意 電池に関する注意

強制	**電池を入れるときは、極性表示(プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。** 向きを間違えると破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく。 液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない。** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。** 破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。** ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	分解しない。 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

本機でできること

再 生

CD/CD-R/CD-RW
(オーディオCD/MP3/WMAディスク)

➡「CDを聴くには」19ページ

カセットテープ

➡「カセットテープを聴くには」28ページ

USBメモリー (USBフラッシュメモリー)に保存されたMP3/WMAファイル

➡「USBメモリーを聴くには」21ページ

録 音

ディスクやカセットテープ、外部接続した機器からUSBメモリーに録音

➡「USBメモリーに録音するには」39ページ

ディスクやUSBメモリー、外部接続した機器からカセットテープに録音

➡「カセットテープに録音するには」42ページ

カセットテープ、外部接続した機器からディスクに録音

➡「CDに録音するには」30ページ

CD、カセットテープやUSBメモリー、外部接続した機器からパソコンに録音

➡「パソコンで録音するには」48ページ

タイマー

市販のタイマーが必要です。

➡「タイマー再生」45ページ

➡「タイマー録音」46ページ LINE IN ➡

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社AVお客様相談室(裏表紙に記載)にご連絡ください。

リモコン(RC-1283)×1

リモコン用乾電池(単4)×2

RCAオーディオケーブル×2

取扱説明書(本書)×1

保証書×1

使用上の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- 再生中はディスクが高速で回転していますので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたままの移動は、故障の原因となります。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたまま近くにあるテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

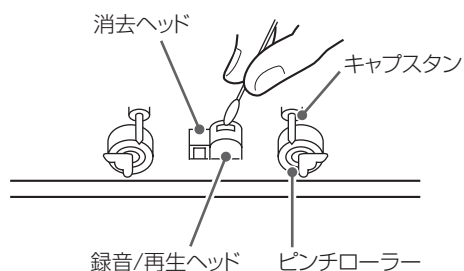
ディスクについて

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやシンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

ヘッド周りのメンテナンス方法について

ヘッド部が汚れると、録音・再生の音質が悪化したり、音飛びの原因になります。また、テープ走行部の汚れは、テープの巻き込みなどを引き起こすことがあります。
約10時間の使用を目安に、市販のカセット式クリーナーやクリーニング液を綿棒に含ませたものを使って、ヘッドとピンチローラー、キャプスタンを清掃してください。

● ヘッドやピンチローラー、キャプスタンのクリーニング液が乾いてから、カセットテープをセットしてください。乾いていない状態でテープを走行させるとテープがからんでしまう可能性がありますのでご注意下さい。

本機で再生できるディスク

「Compact Disc Digital Audio」ロゴマークのあるCD(12cm/8cm)

● ロゴマークは、ディスクレーベルやパッケージに表示してあります。

音楽CDフォーマットで正しく記録され、ファイナライズされたCD-RおよびCD-RW。
または、MP3またはWMAファイルが記録され、ファイナライズされたCD-RおよびCD-RW。

本機は上記のディスクをアダプターなしで再生することができます。上記以外のディスクは再生できません。

⚠ **上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。**

● ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。

● 以下のディスクは本機で読込み、再生ができません。

ビデオCD
CD-ROM
スーパーオーディオCD
DVDビデオ
DVDオーディオ
DVD-ROM

⚠ **DVDビデオ、DVDオーディオ、DVD-ROMなどをディスクトレーに入れると、ディスクを読み込もうとして高速回転します。万が一これらのディスクを入れてしまった場合は、ディスクを傷つけるおそれがありますので、必ず回転が終わってから取り出してください。(「READING」の表示中には取り出さないでください)**

● コピーコントロールCDやDual Discなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

ディスクについて（続き）

本機で録音できるディスク

音楽用 CD-R および CD-RW

パッケージに「音楽用」、「for MUSIC」等の表記があります。

- コンピュータなどを使用して記録されたコンピュータ用のCD-R/CD-RWは、音声規格に従って正しく録音されていれば再生することができますが、本機で録音/ファイナライズ/消去することはできません。

コンピューター用ディスクの見分け方
ディスクに「650MB」や「700MB」などのデータ容量表示があるものはコンピューター用です。音楽録音用にはデータ容量の表記はありません。

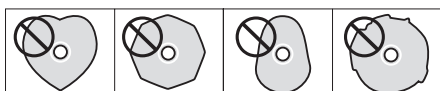
- 本機では音楽用CDフォーマット(CD-DA)以外で記録(録音)することは出来ません。

CD-R/CD-RWについて

本機は音楽用CDフォーマット(CD-DA)とMP3またはWMAフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。
また、音楽用CDフォーマット(CD-DA)でCD-R/CD-RWに録音できます。

- CDレコーダーで作成したディスクを再生するときは、忘れずにファイナライズしてください。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生/録音できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクの発売元にお問い合わせください。

使用上の注意

- ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて録音/再生ができなくなる場合があります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ディスクの取扱い

- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- 信号記録面(レーベルがない面)に傷、指紋、汚れなどがあると、録音/再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。信号記録面を手で触らぬようご注意ください。

取り出し方

持ち方

ディスクの保存について

- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形·変質して、再生できなくなるおそれがあります。
- CD-R/CD-RWは、通常のCDと比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。
- ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

お手入れ

- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。

- レコードクリーナー、帯電防止剤、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

USBメモリーについて

⚠ **注 意**

USBメモリーの読込み、再生、録音、またはファイルの消去などのアクセス中には、絶対に電源をオフにしたり、USBメモリーを抜いたりしないでください。本機やUSBメモリーの故障の原因になります。

本機で使用できるUSBメモリー

- USBフラッシュメモリーのみ使用できます。
- USBメモリータイプの携帯ミュージックプレーヤーは、使用できない場合があります。
- ハードディスクドライブ(HDD)、CD/DVDドライブなどのUSB接続機器は使用できません。
- 本機ではUSBメモリーに記録されているファイルをコピー、または移動することはできません。
- 再生可能フォーマット：FAT12、FAT16、FAT32
- NTFS、HFS、またはHFS+フォーマットは使用できません。
- 再生可能な最大フォルダー数：255
- 再生/録音可能な最大ファイル数：999
- USBメモリーの状態によっては、ファイルが再生できなかったり、音が途切れることがあります。

USBメモリーへの録音

本機では、CDやカセットテープ、または接続した外部入力機器(チューナーやレコードプレーヤーなど)の音声をMP3形式にして、USBメモリーに録音することができます。
録音方法は、39ページをご覧ください。

MP3について

本機は、CD-R/CD-RWやUSBメモリーに記録されたMP3ファイルを再生することができます。

- 本機で再生できるMP3ファイルは、モノラルまたはステレオのMPEG-1 Audio Layer 3フォーマットで、サンプリングレートが16kHzから48kHz、ビットレートが320kbps以下のファイルです。
- マルチセッションで記録されたディスクには対応していません。最初のセッションのみ再生します。
- 本機でUSBメモリーに録音されるMP3ファイルの録音フォーマットについては、39ページをご覧ください。

ファイル名の表示について

本機のディスプレーには半角のアルファベットと数字(1バイト文字)しか表示できません。

- ファイル名に日本語や中国語などの全角文字(2バイト文字)が使われている場合、再生はできますが、ディスプレーに正しく表示できません。その場合、「****」と表示されます。

パソコンなどを使って MP3ファイルを作成する際のご注意

- ファイル名には必ず拡張子を付けてください。MP3ファイルの認識はファイル拡張子「.mp3」で行います。
- クローズセッション(ディスクの作成を完了)してください。クローズセッションされていないディスクは再生できません。
- 作成する際に使用するソフトウェアのマニュアルをよくお読みください。

本機で正常に再生できない場合

- 拡張子のないファイルは本機では再生できません。また、拡張子(.mp3)がついているファイルでも、データがMP3形式ではない場合は再生できません。
- 可変ビットレートで記録されたファイルは、正常に再生できないことがあります。
- ファイル数が999、フォルダー数が255を超えて記録してある場合、1000番目以降のファイル、256番目以降のフォルダーは本機で正常に再生できません。
- ディスクやUSBメモリーの状態によっては、本機で再生できなかったり、音が途切れることがあります。

カセットテープについて

本機で使用できるカセットテープ

本機で再生できるカセットテープ

ノーマル(タイプ I)　クローム(タイプ II)
メタル(タイプ IV)

本機で録音できるカセットテープ

ノーマル(タイプ I)　クローム(タイプ II)

使用上の注意

- カセットを開けたり、テープを引き出したりしないでください。
- テープに直接手を触れないでください。

保存上の注意

- 磁石や磁気を帯びたものに近付けないでください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。
- ホコリの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での保存は避けてください。

使用できないカセットテープ

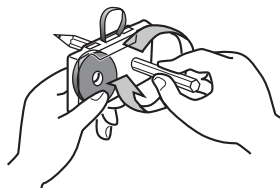
次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作をしないことがあります。テープが巻き込まれるなど思わぬトラブルを起こすこともありますので、使わないでください。

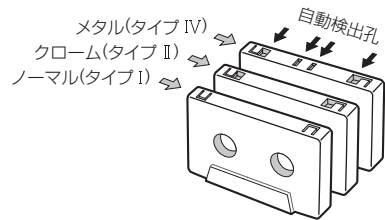
変形したカセットテープなど
カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの。早送り、巻き戻し中に異音を生ずるもの。

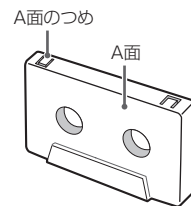
長時間テープ
90分を超えるテープは大変薄くて伸びやすいため、キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。本機ではご使用にならないでください。最悪の場合はカセットテープが取り出せなくなります。

エンドレステープ
テープが巻き込まれる恐れがありますので、絶対に使わないでください。最悪の場合はカセットテープが取り出せなくなります。

テープの「たるみ」

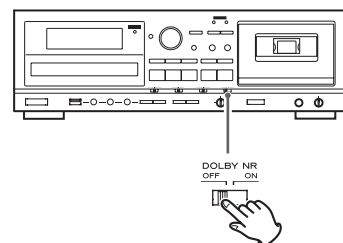
テープがたるんでいると、キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻き取ってから使用してください。

自動検出孔について

本機のカセットデッキはカセットテープの自動検出孔によってテープの種類を自動検出します。自動検出孔のあるカセットテープをお使いください。

誤消去を防止するには

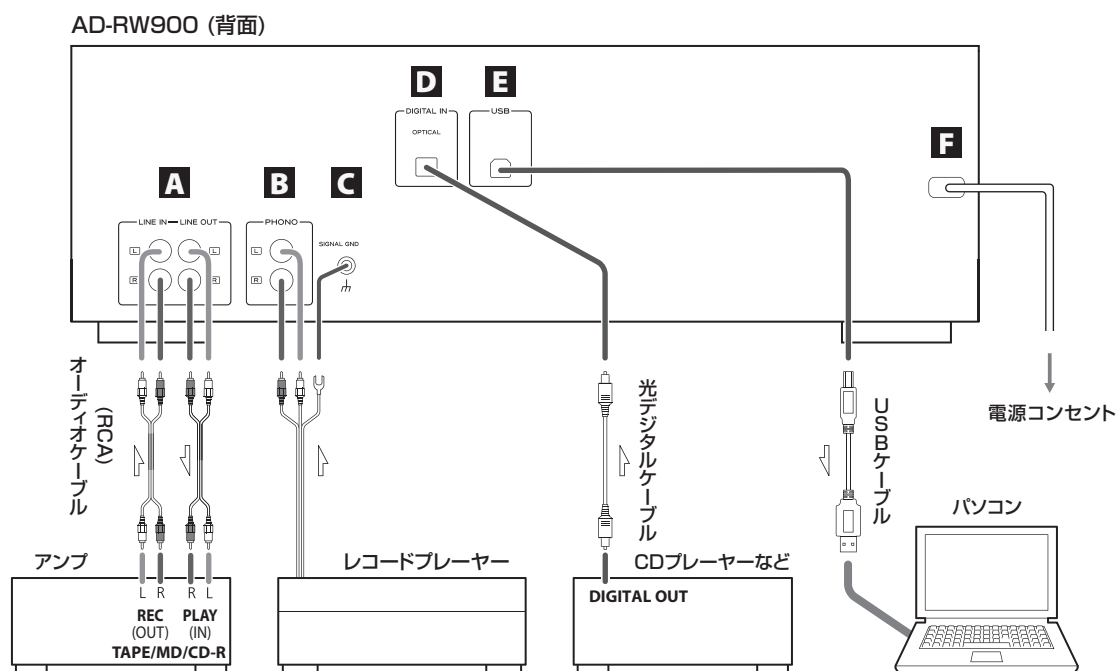
カセットテープには、大切な録音内容を誤って消さないように、誤消去防止用のつめがついています。つめはカセットのA面、B面用にそれぞれあります。
ドライバーの先などで折って取り除くと、誤消去防止装置が働いて録音ができなくなります。

- 再度、録音をしたいときは、つめを取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。その際にテープ自動検出孔はふさがないようご注意ください。

ドルビー NR(ノイズリダクション)システムについて

ドルビー NRシステムは、再生/録音時に発生する"シー"というテープノイズを低減します。本機はBタイプのドルビー NRシステムを内蔵しています。

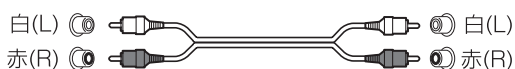
DOLBY NRスイッチで、ドルビー NRの切換えができます。

- ドルビー NRシステムは録音→再生の両方で効果を発揮しますので、再生するときは録音したときと同じタイプを選んでください。

接　続

AD-RW900 (背面)

⚠ **全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。**

- **接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。**
- **ノイズ発生の原因となるので、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。**

A アナログ音声入出力端子 (LINE IN / OUT)

アナログの音声を入出力します。付属のRCAオーディオケーブルを使って接続してください。

B フォノ入力端子 [PHONO]

レコードプレーヤーを接続してください。
白のピンプラグを白(L)端子に、赤のピンプラグを赤(R)端子に接続してください。

- プラグはしっかりと差し込んでください。また、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因になります。
- MM(ムービングマグネット)型カートリッジに対応しています。MC（ムービングコイル)型には対応していませんのでご注意下さい。

C レコードプレーヤー用アース端子 [SIGNAL GND]

レコードプレーヤーのアースを接続してください。

- 本機の安全アースではありません。
- お持ちのレコードプレーヤーにアース線がついているときは、ハムノイズの発生を防ぐために必ずアース線をつないでください。

D デジタル音声入力端子 [DIGITAL IN]

光デジタルケーブルを使って、CDプレーヤーなどのデジタル出力端子と接続します。
光デジタルケーブルを接続したまま、入力されるデジタル信号のサンプリング周波数が切り変わると、正確に認識できない場合があります。(「OPTICAL UNLOCK」と表示されます。)
この場合、光デジタルケーブルを端子から一度抜き、周波数を切り替えてから挿し直して下さい。
または、周波数を切り替えた後に、本機の電源を一度OFFし、再度オンにして下さい。

E USB出力端子(USB Bタイプ)

パソコンのUSB端子と接続して、本機の音声をデジタルに変換してパソコンへ出力します。

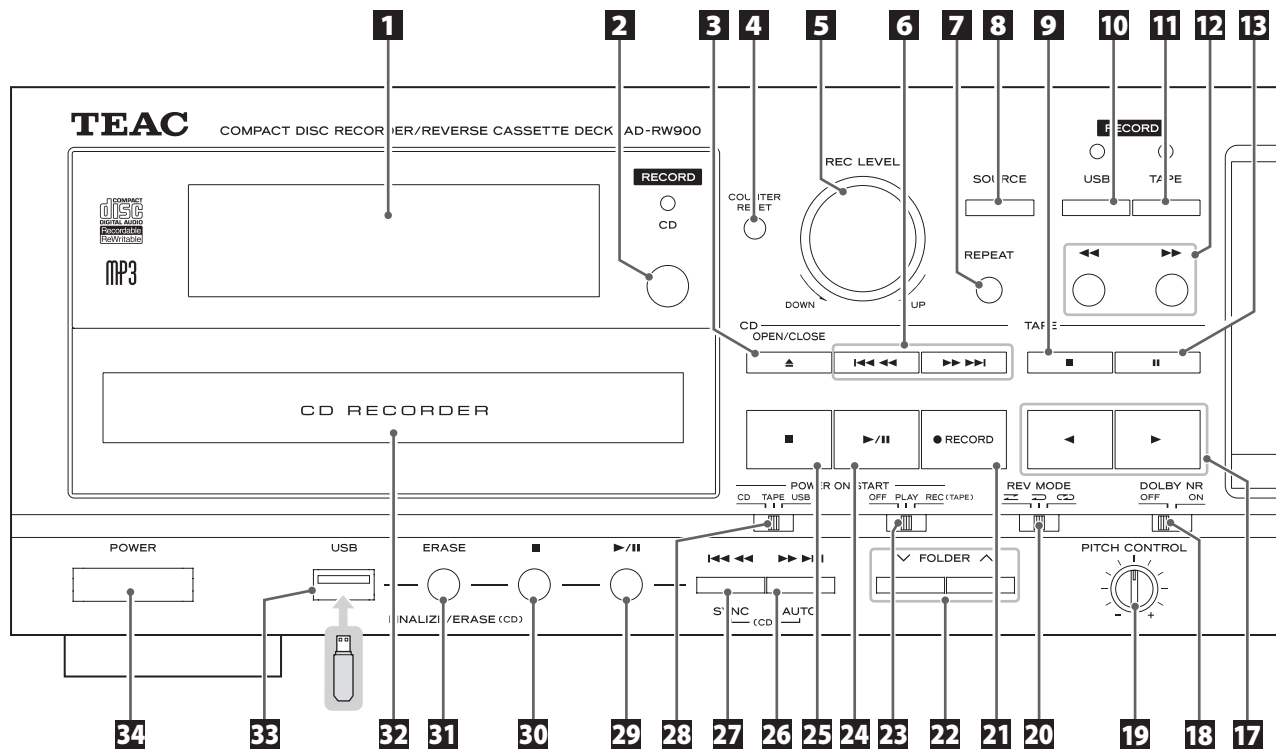
F 電源コード

全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

- 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

⚠ **注意**

交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。また、電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。

各部の名前とはたらき(本体)

1 ディスプレー
曲数や再生時間などの情報が表示されます。(16ページ)

2 リモコン受光部
リモコンを使用するときは、リモコンの先端をここに向けて操作してください。

3 CD トレー開閉ボタン(▲)
ディスクトレーを開閉します。

4 TAPE カウンターリセットボタン(COUNTER RESET)
ディスプレーのテープカウンターを「0000」にリセットします。

5 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)
録音待機状態または録音中に録音レベルを調節します。

- パソコンとUSB接続しているときは、パソコンに出力する音声のレベルを調節します。(録音待機状態または録音中は本機の録音レベルを調節します。)

6 CD スキップ(|◀◀/▶▶|)/サーチ(◀◀/▶▶)ボタン
前または次の曲にスキップします。再生中に押し続けると早戻し/早送りができます。

7 CD USB リピートボタン(REPEAT)
リピート再生に使います。(23ページ)

8 ソース切替ボタン(SOURCE)
このボタンを押すたびに入力ソースが切り換わります。(18ページ)

9 TAPE 停止ボタン(■)
カセットテープの再生/録音を停止します。

10 USB録音ボタン(RECORD USB)
USBメモリーに録音をするときに使います。一度押すと録音待機状態になり、もう一度押すと録音を開始します。(39ページ)
録音中に押すと、そこで録音ファイルが分割されます。(41ページ)
(ただし、CDからの録音では分割できません。)

11 テープ録音ボタン(RECORD TAPE)
カセットテープに録音をするときに使います。一度押すと録音録音待機状態になり、もう一度押すと録音を開始します。(43ページ)

12 TAPE 巻戻し/早送りボタン(◀◀/▶▶)
カセットテープの巻戻し/早送りに使います。

13 TAPE 一時停止ボタン(❚❚)
カセットテープの再生/録音を一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。

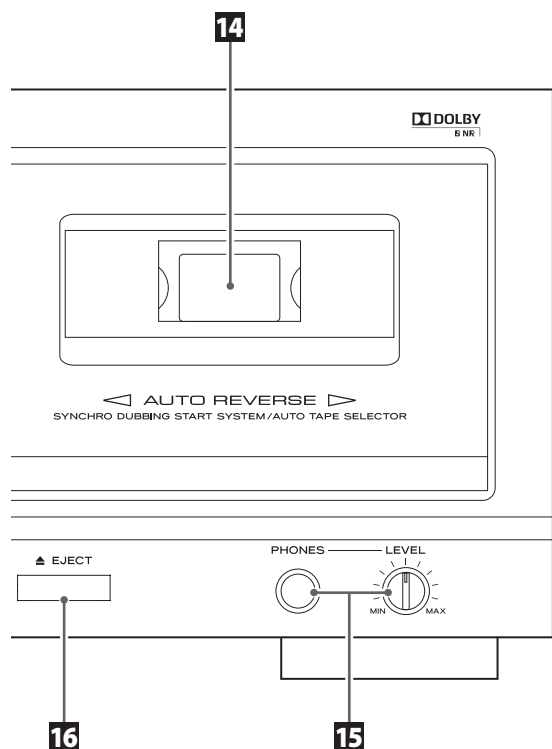
14 TAPE カセットホルダー

15 ヘッドホン端子(PHONES)/レベルつまみ (LEVEL)
ヘッドホンをお使いになるときは、ヘッドホンプラグを端子に差し込み、レベルつまみで適切な音量にします。

⚠ 注 意

ヘッドホンを耳にかけたまま、電源のオン/オフ、またはヘッドホン端子の抜き差しを行わないでください。ヘッドホンから大きな音が発生することがあります。

16 TAPE イジェクトボタン(▲ EJECT)
カセットホルダーを開きます。(カセットテープが停止している状態のときのみ開きます。)

17 TAPE 再生ボタン(◀/▶)
カセットテープを再生します。
A面を手前にしてカセットテープをセットしたとき
▶:A面を再生します
◀:B面を再生します。
また、再生/録音が一時停止状態のときに押すと、再生/録音が再開します。

18 TAPE DOLBY NRスイッチ

ドルビー NRのオン/オフを切換えます。(10、29ページ)

19 TAPE ピッチコントロールつまみ(PITCH CONTROL)

テープ再生の速度を変更します。(30ページ)

20 TAPE リバースモードスイッチ(REV MODE)

リバースモードを切り換えます。(28ページ)

21 CD 録音ボタン(●RECORD)

CDに録音をするときに使います。一度押すと録音待機状態になり、もう一度押すと録音を開始します。(31ページ)
録音中に押すと、ボタンを押したタイミングで曲番を繰り上げることができます。(34ページ)

22 CD USB フォルダーボタン(∨ FOLDER ∧)

MP3のフォルダーを選びます。(20、22ページ)

23 タイマー設定スイッチ
(POWER ON START OFF-PLAY-REC (TAPE))

このスイッチで、タイマーの設定(タイマー再生、タイマー録音、またはタイマーオン機能停止)を選びます。(45ページ)

- タイマー再生/録音を行うときは、オーディオタイマーが別途必要になります。

24 CD 再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)

ディスクの再生中、または録音中に押すと一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。
ファイナライズ、アンファイナライズ、消去の開始にも使用します。

25 CD 停止ボタン(■)

ディスクの再生/録音を停止します。

26 USB スキップ(▶▶I)/サーチ(▶▶)ボタン、
CD オートボタン(AUTO)

USBモードのとき、次の曲にスキップします。再生中に押し続けると早送りができます。
CDに録音するとき、録音するときの曲番の付け方を切り換えます。(32ページ)

27 USB スキップ(I◀◀)/サーチ(◀◀)ボタン
CD シンクロ録音ボタン(SYNC)

USBモードのとき、後ろの曲にスキップします。再生中に押し続けると早戻しができます。
CDに録音するとき、シンクロ録音のモード(1曲または全曲)を切り換えます。(34ページ)

28 ソース設定スイッチ
(POWER ON START CD-TAPE-USB)

このスイッチで設定したソースが電源オン時に起動します。
このスイッチで、タイマー再生/録音するものを選びます。(タイマー録音では、カセットテープにのみ録音できます)
タイマー再生/録音をするには、市販のオーディオタイマーを本機に接続してください。(46ページ)

29 USB 再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)

USBメモリーの再生中、または録音中に押すと一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。

30 USB 停止ボタン(■)

USBメモリーの再生を停止します。
また、USBメモリーへの録音を停止するのに使います。

31 USB 消去ボタン(ERASE)、
CD ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)

USBモードのとき、USBメモリー内のファイルを削除します。(42ページ)
CDモードのとき、録音したCD-R/CD-RWをファイナライズするときや、CD-RWに録音した曲を消去、またはファイナライズを取り消す(アンファイナライズ)ときに使用します。(36、37ページ)

32 CD ディスクトレー

33 USB USBメモリー用端子(USB Aタイプ)

USBメモリーを接続します。

34 電源ボタン(POWER)

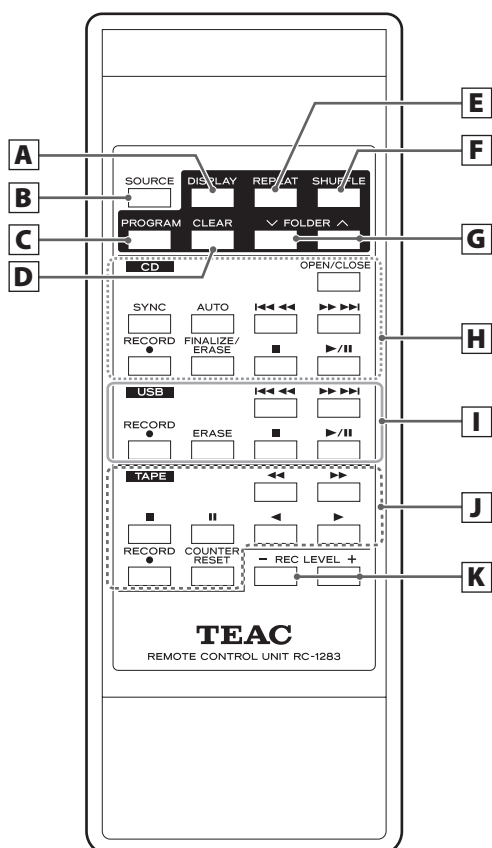
電源をオン/オフします。

⚠ 注 意

USBメモリーのアクセス中(読込み、再生、録音、またはファイルの消去中など)には、絶対に電源をオフにしたり、USBメモリーを抜いたりしないでください。
本機やUSBメモリーの故障の原因になります。

⚠ 注 意

CDへの書き込み中(録音、ファイナライズ、アンファイナライズ、曲を消去)には、絶対に電源をオフにしないでください。
ディスクが再生できなくなったり、本機の故障の原因になります。

各部の名前とはたらき(リモコン)

本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。

A CD USB **ディスプレーボタン(DISPLAY)**
ディスプレーに表示される情報を切り換えます。(17ページ)

B **ソース切替ボタン(SOURCE)**
このボタンを押すたびにソースが切り換わります。(18ページ)

C CD USB **プログラムボタン(PROGRAM)**
プログラム再生に使います。(24ページ)

D CD USB **消去ボタン(CLEAR)**
プログラムを消去します。(26、27ページ)

E CD USB **リピートボタン(REPEAT)**
リピート再生します。(23ページ)

F CD USB **シャッフルボタン(SHUFFLE)**
シャッフル再生します。(23ページ)

G CD USB **フォルダーボタン(∨ FOLDER ∧)**
MP3ファイルを再生するときのフォルダー選択に使用します。(20、22ページ)

H CD

トレー開閉ボタン(OPEN/CLOSE)
ディスクトレーを開閉します。

シンクロ録音ボタン(SYNC)
CDに録音するとき、シンクロ録音のモード(1曲または全曲)を切り換えます。(34ページ)

オートボタン(AUTO)
CDに録音するとき、録音するときの曲番の付け方を切り換えます。(32ページ)

スキップ(⏮/⏭)/サーチ(◀◀/▶▶)ボタン
前または次の曲にスキップします。再生中に押し続けると早戻し/早送りができます。

録音ボタン(RECORD●)
CDに録音するときに使います。一度押すと録音待機状態になり、もう一度押すことにより録音が開始されます。(31ページ)
録音中に押すと、曲の途中に曲番を追加することができます。(34ページ)

ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)
録音したCD-R/CD-RWをファイナライズするときや、CD-RWに録音した曲を消去、またはファイナライズを取り消す(アンファイナライズ)ときに使用します。(36、37ページ)

停止ボタン(■)
ディスクの再生/録音を停止します。

再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)
ディスクの再生中、または録音中に押すと一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。
ファイナライズ、アンファイナライズ、消去の開始にも使用します。

I USB

スキップ(⏮ / ⏭)/サーチ(◀◀ / ▶▶)ボタン

前または次の曲にスキップします。再生中に押し続けると早戻し/早送りができます。

録音ボタン(RECORD ●)

USBメモリーに録音をするときに使います。一度押すと録音待機状態になり、もう一度押すと録音を開始します。(39、41ページ)(ただし、CDからの録音では分割できません。)

削除ボタン(ERASE)

USBメモリー内のファイルを削除します。(42ページ)

停止ボタン(■)

USBメモリーの再生/録音を停止します。

再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)

USBメモリーを再生します。
USBメモリーの再生/録音中に押すと一時停止します。もう一度押すと再生/録音を再開します。

J TAPE

巻戻し/早送りボタン(◀◀ / ▶▶)

カセットテープの巻戻し/早送りに使います。

停止ボタン(■)

カセットテープの再生/録音を停止します。

一時停止ボタン(❚❚)

カセットテープの再生/録音を一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。

再生ボタン(◀ / ▶)

カセットテープを再生します。
A面を手前にしてカセットテープをセットしたとき
▶ ：A面を再生します
◀ ：B面を再生します。
また、再生/録音が一時停止状態のときに押すと、再生/録音が再開します。

録音ボタン(RECORD ●)

カセットテープに録音するときに使います。一度押すと録音録音待機状態になり、もう一度押すと録音を開始します。(43、44ページ)

カウンターリセットボタン(COUNTER RESET)

ディスプレーのテープカウンターを「0000」にリセットします。

K **録音レベル調節ボタン(– REC LEVEL +)**
録音レベルを調節するときに使います。

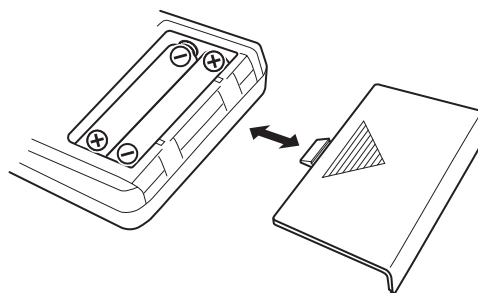
リモコンの使い方

使用上の注意

⚠ **乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。5ページの注意をよく読んでお使いください。**

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖の表示に合わせて乾電池(単4形)2本を入れて、フタを閉めてください。

電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

準備

ディスプレー

CDモード

再生中

オーディオCD

再生中の曲の経過時間 (分/秒)

再生中の曲番

MP3ディスク

再生中のファイル番号
（フォルダーごとに「001」から始まります）

再生中のフォルダー番号

再生中のファイルの経過時間
(分/秒)

再生中のファイル名
(長い場合はスクロール表示します)

停止中

オーディオCD

総再生時間

総曲数

MP3ディスク

総ファイル数

総フォルダー数

TAPEモード

テープカウンター

USBモード

再生中

再生中のファイル番号
（フォルダーごとに「001」から始まります）

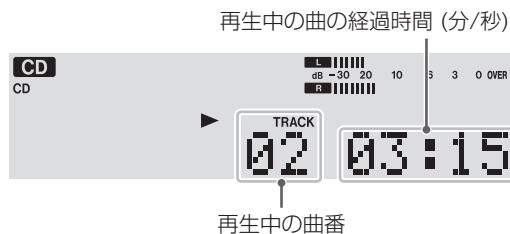
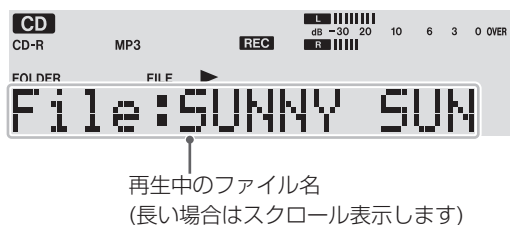
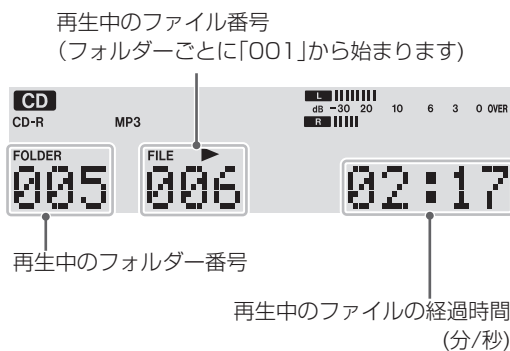
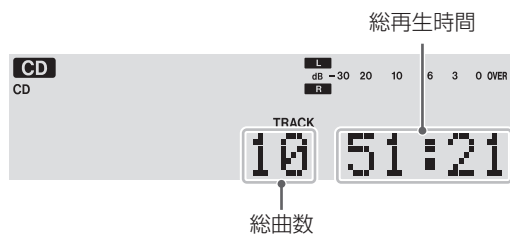
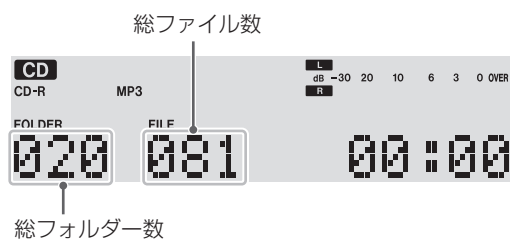
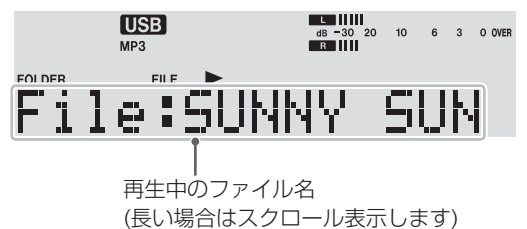
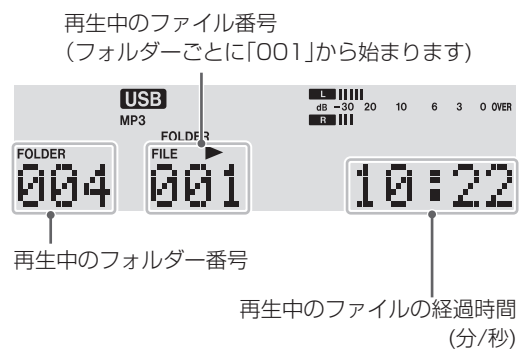
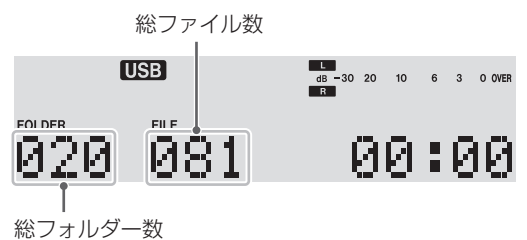
再生中のフォルダー番号

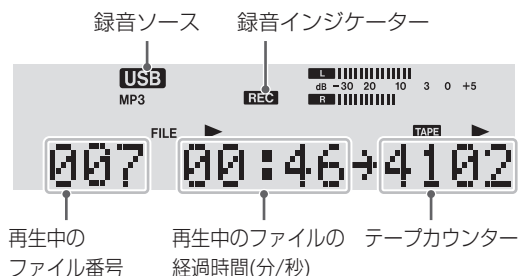
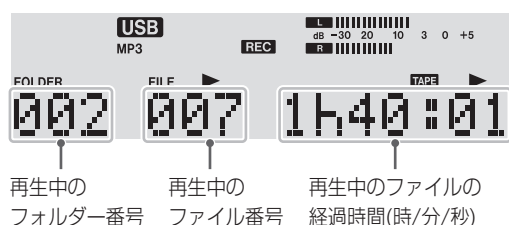
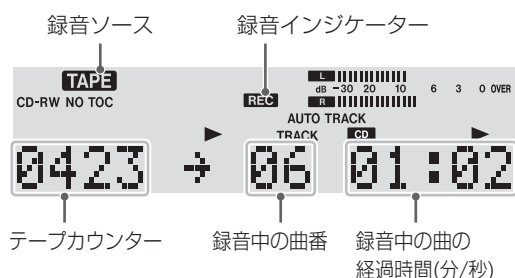
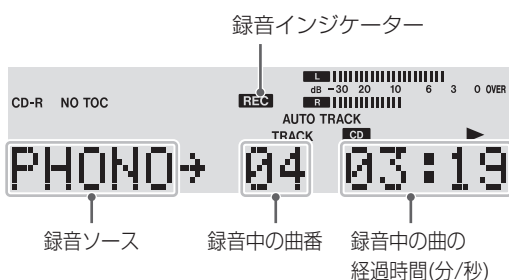
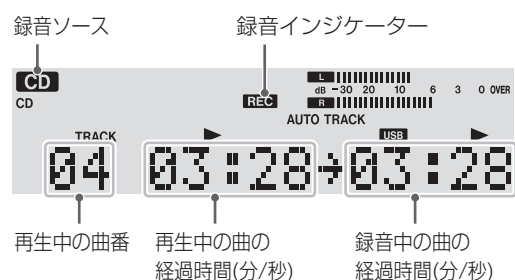
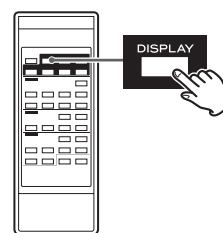
再生中のファイルの経過時間
(分/秒)

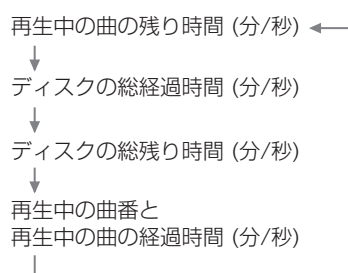
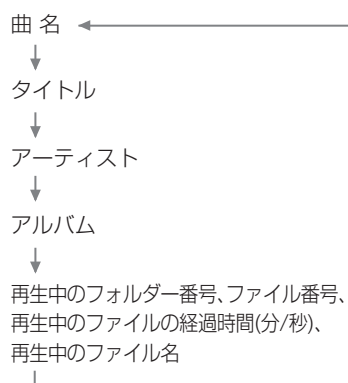
再生中のファイル名
(長い場合はスクロール表示します)

停止中

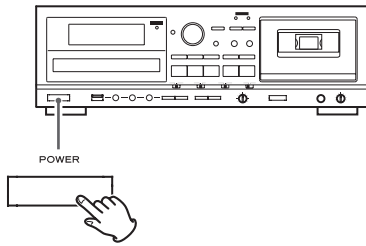
総ファイル数

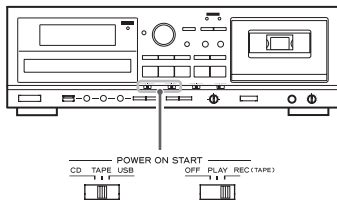
総フォルダー数

録音中

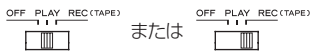
(例: USBメモリーからカセットテープに録音中)

(例: 録音時間が100分以上の時の表示)

(例: カセットテープからCD-RWに録音中)

(例: レコードからCD-Rに録音中)

(例: CDからUSBメモリーに録音中)

ディスプレーの切換(CD/USBモード)

CDまたはUSBメモリーの再生中にディスプレーボタン(DISPLAY)を押すたびに、以下のようにディスプレーの表示が変わります。

オーディオCD

MP3ディスク/USBメモリー

- 該当する情報がないときは、「Title No (タイトル情報なし)」、「Album No (アルバム情報なし)」、または「Artist No (アーティスト情報なし)」が表示されます。
- ファイル情報を読み取ることが出来ないときは、「****」と表示されます。
- 本機のディスプレーでは1バイトの半角英数字しか正しく表示できません。2バイト文字(日本語・中国語・韓国語など)や、半角カタカナなどの英数字以外の1バイト文字が使われている場合は「＊＊＊＊」と表示されます。(音声再生は可能です。)

基本操作

電源のオン/オフ

電源をオン/オフするには、電源ボタン(POWER)を押します。
電源がオンになっているときは、ディスプレーが点灯します。

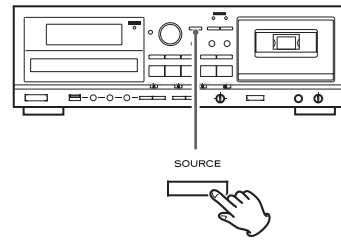
電源をオンにするときは、タイマー設定スイッチ(POWER ON START OFF-PLAY-REC (TAPE))の位置を確認してください。このスイッチの位置によって、動作が違ってきます。

電源オン時に、タイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)が「PLAY」または「REC」になっている場合

OFF PLAY REC (TAPE) または OFF PLAY REC (TAPE)

ソース設定スイッチ(CD-TAPE-USB)で設定されているソースが再生/録音されます。
タイマー録音では、カセットテープへのみ録音できます。(46ページ)

電源オン時に、タイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)が「OFF」になっている場合

ソース設定スイッチ(CD-TAPE-USB)で設定されているソースのモードで電源がオンになります。

● タイマーを使わないときは、大切なカセットテープに誤って上書き録音しないように、必ずタイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)をOFF(オフ)の位置にしておいてください。

ソースの切換

ソース切換ボタン(SOURCE)を押すたびに、以下のようにモードが切り替わります。

現在のソースは、ディスプレーの左上に表示されます。
ただし、PHONO INはディスプレーの下側に表示されます。

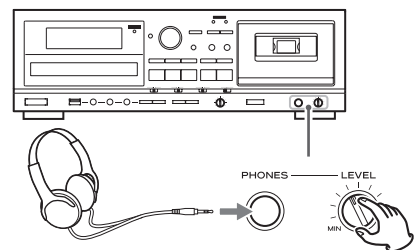
● 録音中はソースを切替えることはできません。

● それぞれのソースの再生ボタン(▶)または再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、そのソースのモードに切り替わり、再生が始まります。

● アナログ音声入力端子(LINE IN)に接続したソースを聴くには、「LINE IN」を選んでください。

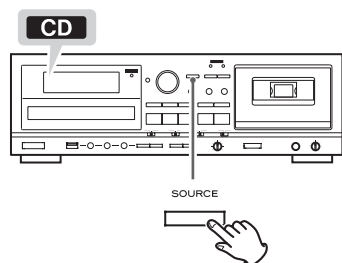
● フォノ入力端子(PHONO)に接続したレコードプレーヤーを聴くには、「PHONO IN」を選んでください。

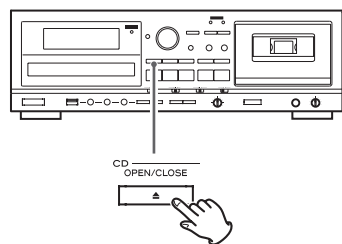
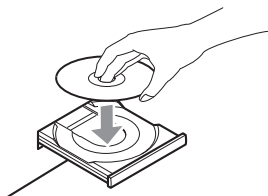
● デジタル音声入力端子(DIGITAL IN)に接続したデジタルソースを聴くには、「DIGITAL」を選んでください。

ヘッドホンで聴くには

ヘッドホンをお使いになるときは、まず音量を下げてからお手持ちのヘッドホンのプラグ(ステレオ標準プラグ)をヘッドホン端子(PHONES)に差し込み、レベルつまみ(LEVEL)で徐々に音量を上げて調節してください。

⚠ **必ず音量を下げてからヘッドホンプラグを差し込み、ヘッドホンを着けるようにしてください。また、ヘッドホンを耳にかけたまま、電源のオン/オフや、ヘッドホン端子の抜き差しを行わないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。**

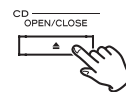
CDを聴くには

1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、CDモードを選ぶ。

- 他のモードのときにCD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、自動的にCDモードに切り替わります。
- ディスクがセットされているときはCD再生を始めます。

2 CDトレー開閉ボタン(⏏)を押して、ディスクトレーを開ける。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせる。

- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレーを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレーが開かなくなることがあります。ディスクは必ずトレーの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

注 意

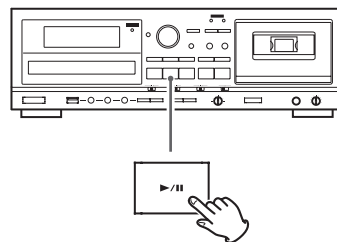
- 2枚以上のディスクをセットしないでください。
- トレーの開閉動作中は、手で無理やり開け閉めしないでください。
- ディスクにはセロハンテープやシール、ラベルなどを貼らないでください
- ハート形や八角形など特殊形状のCDは使用しないでください。

4 CDトレー開閉ボタン(⏏)を押して、トレーを閉める。

⚠ 注 意

指をはさまないよう、ご注意ください。

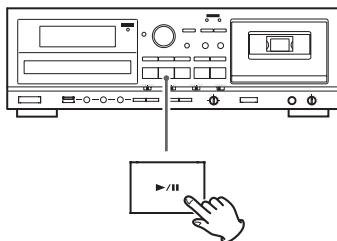
ディスクの読込みには数秒かかります。
読込み中は「READING」と表示され、ボタンを押しても機能しません。
ディスプレーに総曲数と総再生時間が表示されるまでお待ちください。

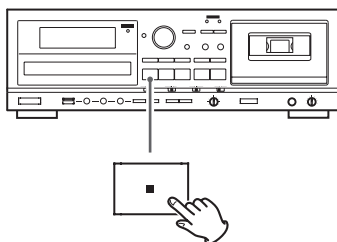
- ディスクがセットされていないときは、「NO DISC」と表示されます。

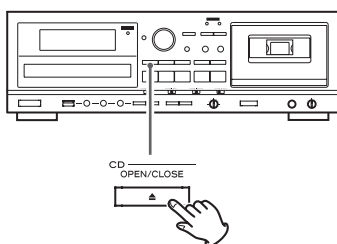
5 CD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押して、再生を始める。

1曲目から再生が始まります。

- ディスクをのせたあと、CDトレー開閉ボタン(⏏)を押さずに(トレーを閉めずに)CD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、自動的にトレーが閉じてディスクの再生が始まります。
- 全ての曲の再生が終わると停止します。
- フォルダーに入っていないMP3ファイルは操作上「ROOT」フォルダー内に保管されているように表示されます。再生は「ROOT」フォルダーの1曲目から始まります。
- MP3ディスクの再生順については47ページをご覧ください。

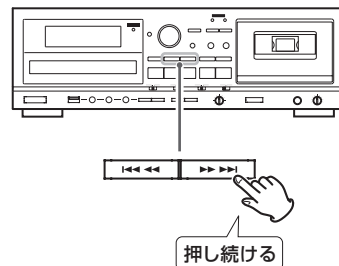
CDを聴くには(続き)

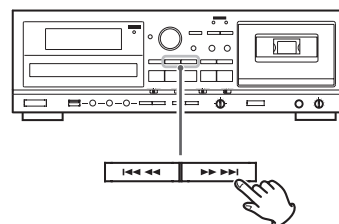
再生を一時停止するには

CD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと再生が一時停止します。
再び再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

再生を停止するには

CD停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

ディスクを取り出すには

CDトレー開閉ボタン(⏏)を押すと、ディスクトレーが開きます。

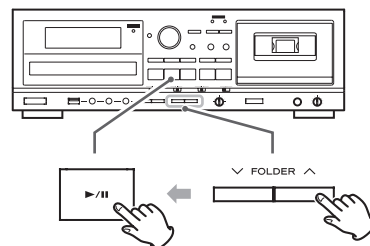
● CDモードのときのみ開くことができます。

聴きたい部分を探すには(サーチ)

再生中にCDサーチボタン(◀◀/▶▶)を押したままでいると、早戻し/早送りができます。聴きたい部分で指をはなしてください。

聴きたい曲を探すには(スキップ)

再生中
CDスキップボタン(|◀◀/▶▶|)を押すと、前または次の曲にスキップして再生を始めます。希望する曲番になるまで、続けて押してください。
選択された曲の頭から再生を始めます。

● 再生中は、|◀◀を1回押すと再生中の曲の始めに戻ります。それより前の曲を再生したいときは、|◀◀を続けて押してください。

停止中または一時停止中
CDスキップボタン(|◀◀/▶▶|)を押して聴きたい曲を選んだ後、CD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押して再生を始めてください。

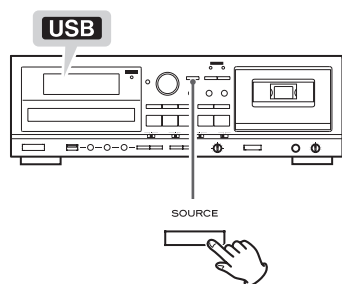
フォルダーを選ぶには(MP3/WMAディスク)

フォルダーを選ぶには、フォルダーボタン(∨ FOLDER ∧)を使います。
CD再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、選んだフォルダーの1曲目から再生が始まります。

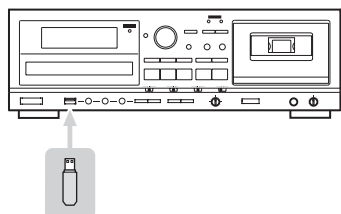
USBメモリーを聴くには

⚠ 注 意

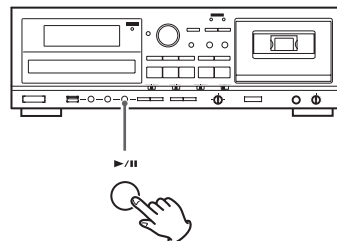
USBメモリーのアクセス中(読込み、再生、録音、またはファイルの消去中など)には、絶対に電源をオフにしたり、USBメモリーを抜いたりしないでください。
本機やUSBメモリーの故障の原因になります。

● 以降、MP3ファイルについて記載しますが、WMAファイルについても同様です。

1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、USBモードを選ぶ。

● 他のモードのときにUSBメモリーの再生を始めると、自動的にUSBモードに切り替わります。

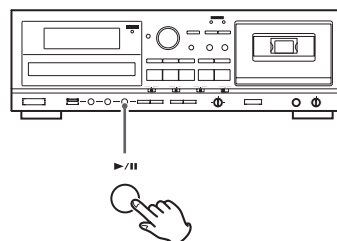
2 本機のUSBメモリー用端子に、USBメモリーを接続する。

USBメモリーの読込みには、数秒かかります。

● USBメモリーにMP3ファイルが記録されていない場合は、「NO MUSIC FILE(ミュージックファイルなし)」と表示されます。

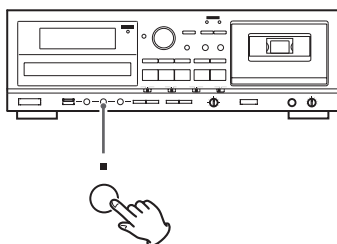
3 USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押して、再生を始める。

● 全ての曲の再生が終わると停止します。

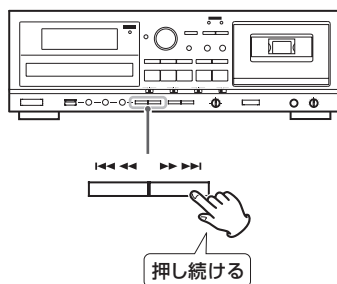
● フォルダーに入っていないMP3ファイルは操作上「ROOT」フォルダー内に保管されているように表示されます。再生は「ROOT」フォルダーの1曲目から始まります。

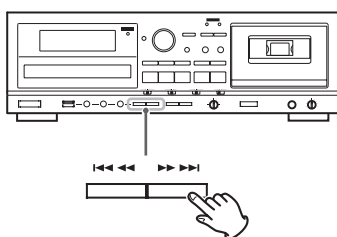
● MP3ファイルの再生順については47ページをご覧ください。

再生を一時停止するには

USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと再生が一時停止します。再びUSB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

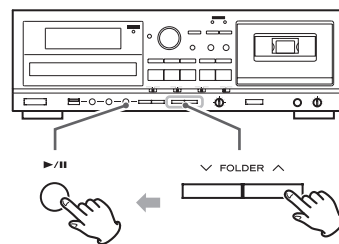
USBメモリーを聴くには(続き)

再生を停止するには

USB停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

聴きたい部分を探すには(サーチ)

再生中にUSBサーチボタン(◀◀/▶▶)を押したままでいると、早送り/早戻しができます。押し続けると、サーチスピードが早くなっていきます。
聴きたい部分で指をはなしてください。

聴きたい曲を探すには(スキップ)

再生中
USBスキップボタン(⏮/⏭)を押すと、前または次の曲にスキップして再生を始めます。希望する曲番になるまで、何度か押してください。
選択された曲の始めから再生を始めます。

● 再生中は、⏮を1回押すと再生中の曲の始めに戻ります。それより後ろの曲を再生したいときは、⏮を続けて押してください。

停止中または一時停止中
USBスキップボタン(⏮/⏭)を押して聴きたい曲を選んだ後、USB再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押して再生を始めてください。

フォルダーを選ぶには

フォルダーを選ぶには、フォルダーボタン(∨ FOLDER ∧)を使います。
USB再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと選んだフォルダーの1曲目から再生が始まります。

リピート、シャッフル、プログラム再生

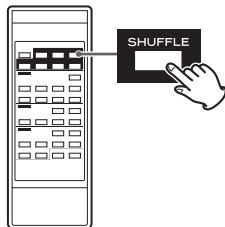
USBモードでは、リピート、シャッフル、プログラム再生ができます。以下のページをご覧ください。

シャッフル再生 ➡ 23ページ
リピート再生 ➡ 23ページ
プログラム再生 ➡ 24ページ

CD USB

シャッフル再生(CD/USB)

この機能はCDモードとUSBモードで使えます。

シャッフルボタン(SHUFFLE)を押すと、シャッフル再生モードになり、CD/USBメモリーにある全曲の中からランダムに再生されます。

シャッフルボタン(SHUFFLE)を押すたびに、シャッフル再生モードのオン/オフが切り替わります。

シャッフル再生中は、ディスプレーに「SHUFFLE」と表示されます。

全ての曲を再生すると、シャッフル再生モードを解除して停止します。

シャッフル再生を中止するには、CD/USB停止ボタン(■)を押します。

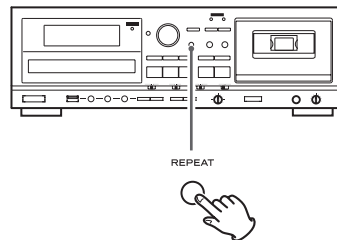
- シャッフル再生中に ►►I ボタンを押すと、次の曲がランダムに選択されます。I◄◄ ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。シャッフル再生中は、再生が終わった曲には戻れません。
- プログラム再生中は、シャッフル再生はできません。
- 以下のボタンを押すと、シャッフル再生モードは解除されます。

  CDモード
  電源ボタン(POWER)、ソース切換ボタン(SOURCE)、CDトレー開閉ボタン(▲)、シャッフルボタン(SHUFFLE)

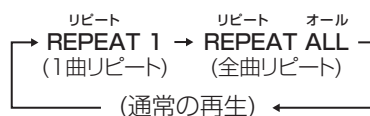
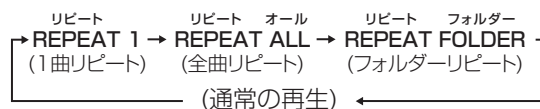
  USBモード
  電源ボタン(POWER)、ソース切換ボタン(SOURCE)、シャッフルボタン(SHUFFLE)
- ファイナライズされていないディスクは、シャッフル再生できません。

CD USB

リピート再生(CD/USB)

この機能はCDモードとUSBモードで使えます。

リピートボタン(REPEAT)を押すたびに、以下のようにリピートのモードが変わります。

オーディオCD

→ REPEAT 1(リピート)(1曲リピート) → REPEAT ALL(リピート オール)(全曲リピート) → (通常の再生) →

MP3ディスク

- 以下のボタンを押すとリピートモードは解除されます。

  CDモード
  電源ボタン(POWER)、ソース切替ボタン(SOURCE)、CDトレー開閉ボタン(▲)、リピートボタン(REPEAT)

  USBモード
  電源ボタン(POWER)、ソース切替ボタン(SOURCE)、リピートボタン(REPEAT)
- リピート再生モードが「REPEAT 1」、「REPEAT FOLDER」のときシャッフルボタン(SHUFFLE)を押すと「REPEAT ALL」に設定が変更されます。
- ファイナライズされていないディスクは、リピート再生できません。

CD USB

次のページに続きます →

CD USB

リピート再生(CD/USB)(続き)

REPEAT 1(1曲リピート)
再生中の曲をくり返し再生します。
ディスプレーに「REPEAT 1」と表示されます。

- 1曲リピート再生中にCD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)を使って他の曲を選んだ場合は、その曲をくり返し再生します。

- 停止中は、リピートボタン(REPEAT)を押してからCD/USBスキップボタン(⏮/⏭)で曲を選び、CD/USB再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押すと、1曲リピート再生を始めます。

REPEAT ALL(全曲リピート)
全曲をくり返し再生します。
ディスプレーに「REPEAT ALL」と表示されます。

- プログラム再生中は、プログラムした曲をくり返し再生します。

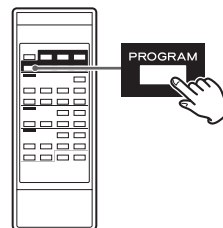
REPEAT FOLDER(フォルダーリピート)
(MP3ディスクのみ)
選択中のフォルダーの全曲をくり返し再生します。
ディスプレーに「REPEAT FOLDER」と表示されます。

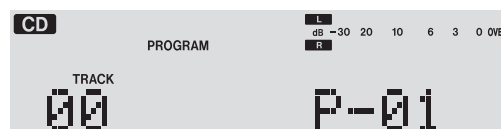
CD USB

プログラム再生(CD/USB)

この機能はCDモードとUSBモードで使えます。

ディスクの中から、再生したい順番に30曲までプログラムすることができます。

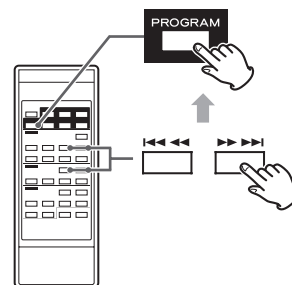
1 停止中にプログラムボタン(PROGRAM)を押す。

ディスプレーに「PROGRAM」が点滅し、「P-01」と表示されます。

(CDモードのときの例)

- プログラムを中止するには、CD/USB停止ボタン(■) を押します。

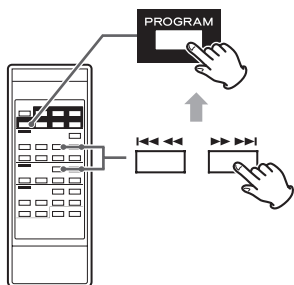
2 (音楽用CDのプログラム方法)

3 に進んでください。

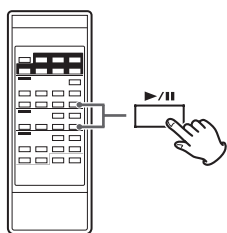
(MP3ファイルのプログラム方法)

CD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)またはフォルダーボタン(﹀ FOLDER ︿)を押してファイルを選び、プログラムボタン(PROGRAM)を押す。

- フォルダーに入っていないMP3ファイルは、「ROOT」フォルダーに入っています。

- ファイナライズされていないディスクは、プログラム再生できません。

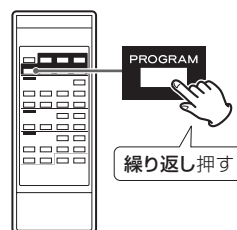
3 CD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)を押して曲を選び、プログラムボタン(PROGRAM)を押す。

選択した曲番またはファイルがプログラムされ、「P-02」が表示されます。

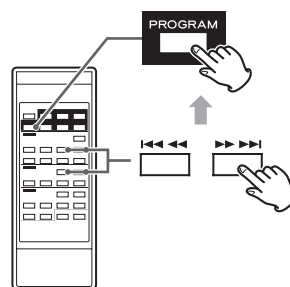
- 複数の曲をプログラムするには、2～3の手順を繰り返してください。
- 30曲までプログラムすることができます。
- プログラムを中止するには、CD/USB停止ボタン(■) を押します。
  このとき、プログラムされた内容は残っていますので、プログラムボタン(PROGRAM)を押してから、CD/USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと、プログラム再生することができます。

4 プログラムが終わったら、CD/USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押してプログラム再生を始める。

プログラムを停止するには、CD/USB停止ボタン(■) を押します。

- プログラム再生が終了した後に、再びプログラム再生をするには、CD/USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押します。
- プログラム再生中にCD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)を押して、プログラム中の他の曲を選ぶことができます。
- プログラム再生中にシャッフル再生はできません。
- プログラム再生中に1曲リピート、全曲リピート再生ができます。全曲リピートではプログラムした曲をくり返し再生します。

プログラムの最後に曲を追加するには

停止中に、「TRACK 00」が表示されるまでプログラムボタン(PROGRAM)を繰り返し押します。

(例)

CD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)で追加したい曲番を選び、プログラムボタン(PROGRAM)を押します。

選択した曲番がプログラムの最後に追加されます。

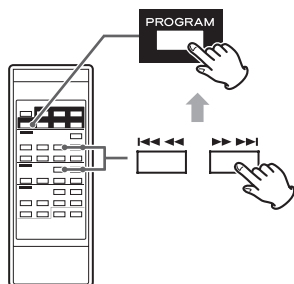
プログラム再生(CD/USB)

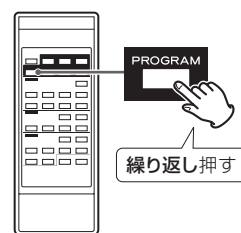
プログラムの一部を書き換えるには

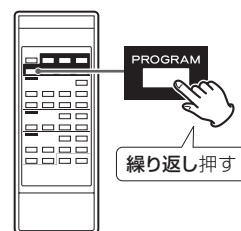
停止中に、**書き換えたい曲番が表示されるまで**プログラムボタン(PROGRAM)を繰り返し押します。

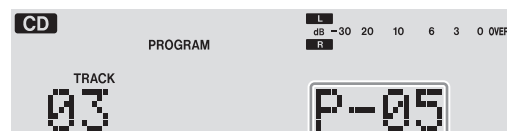
(例)

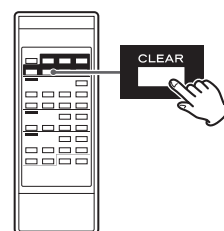
書き換えたいプログラム番号

CD/USBスキップボタン(⏮ または ⏭)で新しく上書きしたい曲番を選び、プログラムボタン(PROGRAM)を押します。

選択した曲番に書き換えられます。

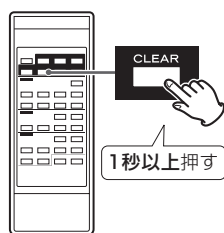
プログラムの順番をチェックするには

停止中にプログラムボタン(PROGRAM)を押すたびに、プログラム番号とプログラムした曲番が順番に表示されます。

プログラムの一部を消去するには

停止中に、**消去したい曲番が表示されるまで**プログラムボタン(PROGRAM)を繰り返し押します。

(例)

消去したいプログラム番号

消去ボタン(CLEAR)を押します。

選択した曲番がプログラムから消去されます。

全てのプログラム内容を消去するには

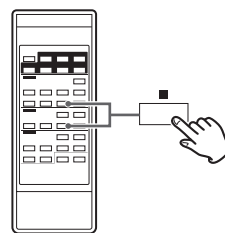
(例)

停止中に、プログラムボタン(PROGRAM)を押してから、消去ボタン(CLEAR)を1秒以上押してください。
ディスプレーの「PROGRAM」インジケーターが消え、全てのプログラム内容が消去されます。

- 「PROGRAM」インジケーターが表示されていないときは、プログラムボタン(PROGRAM)を押して、プログラムモードに切り換えてから消去してください。

- 以下のボタンを押しても、全てのプログラム内容が消去されます。

  CDモード
  電源ボタン(POWER)、CDトレー開閉ボタン(⏏)
  ソース切換ボタン(SOURCE)

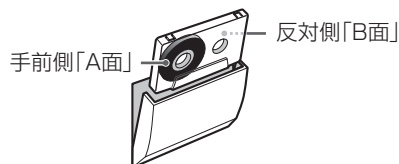
  USBモード
  電源ボタン(POWER)、ソース切換ボタン(SOURCE)

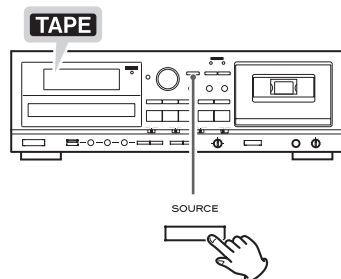
プログラムモードを解除するには

停止中に、CD/USB停止ボタン(■) を押してください。
「PROGRAM」インジケーターが消えて通常のモードに戻ります。

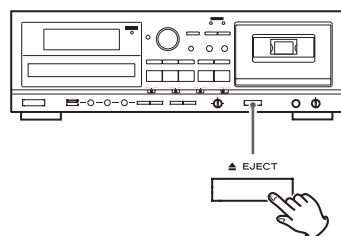
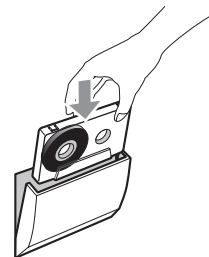
- この操作ではプログラム内容は消去されません。プログラムボタン(PROGRAM)を押してから、CD/USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと、プログラム再生することができます。

カセットテープを聴くには

本機では、ノーマル(タイプ I)、クローム(タイプ II)、またはメタル(タイプ IV)のテープを再生することができます。

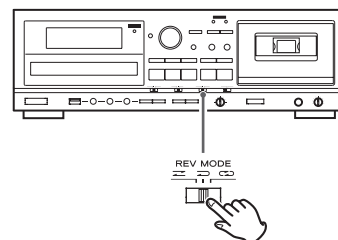
メ モ
この取扱説明書では、手前の面を「A面」、反対側の面を「B面」と呼びます。
「A面」と「B面」を裏返しにセットしたときは、「A面」を「B面」、「B面」を「A面」に読み替えてください。

※ 新品のカセットテープの場合この図のようにA面を手前にすると、左側にテープが巻き取られている状態になります。

1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、TAPEモードを選ぶ。

- 他のモードのときにカセットテープの再生を始めると、自動的にTAPEモードに切り替わります。

2 イジェクトボタン(⏏ EJECT)を押して、カセットホルダーを開ける。

3 カセットを入れる。

テープが露出している部分を下に、再生したい面を手前にして入れてから、カセットホルダーを手で押して閉めてください。

(注意) 故障の原因となりますので、ご注意ください。

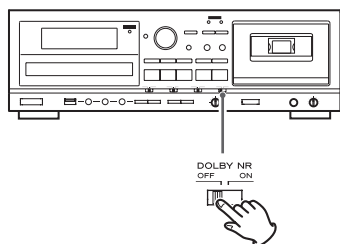
- カセットハーフが変形しているものは使わないでください。
- テープがたるんだ状態のものは使わないでください。
- カセットホルダーを開けるときは、手で無理やり開けないでください。
- カセットホルダーを閉めるときは、ゆっくり無理せずに閉めてください。

4 リバースモードスイッチ(REV MODE)で、リバースモードを選ぶ。

3つのモードから選べます。

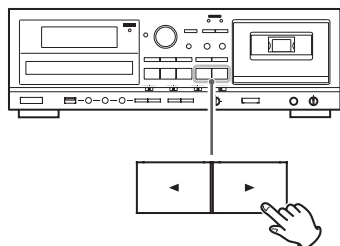
片面モード
片面を再生して停止します。

両面モード
両面を再生(A面→B面)して停止します。

リピートモード
両面を繰り返し再生(A面→B面→A面…)します。(最大両面5回繰り返し)

5 ドルビー NRのオン/オフを選ぶ。

ドルビーノイズリダクション(以下ドルビー NR)を使用して録音されたテープを再生するときは、DOLBY NRスイッチをオン(ON)にしてください。
ドルビー NRがオフで録音されたテープを再生するときは、オフ(OFF)にしてください。

ドルビー ノイズリダクションシステムについて
ドルビー NRシステムは、テープ再生時に発生する「シー」というヒスノイズを低減する機能で、ドルビーラボラトリーズ社により統一された規格です。本機はBタイプのドルビー NRシステムを内蔵しています。
ドルビー NR（Bタイプ)を使用して録音したテープは、再生するときもドルビー NR（Bタイプ)を使用することが必要になります。

6 TAPE再生ボタン(◄/►)を押して再生を始める。

右方向再生ボタン(►)
このボタンを押すと、「A面」の再生が始まります。

リバースモードが⇄のとき
「A面」の最後まで再生し、停止します。

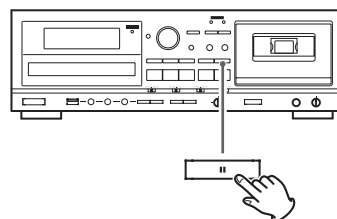
リバースモードが⊐のとき
引き続き「B面」の最後まで再生し、停止します。

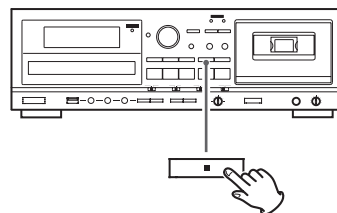
リバースモードが⊂⊃のとき
両面を5回繰り返し再生します。

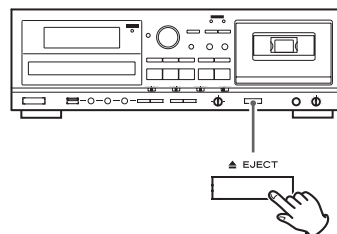
左方向再生ボタン(◄)
このボタンを押すと、「B面」の再生が始まります。

リバースモードが⇄、または⊐のとき
「B面」の最後まで再生し、停止します。

リバースモードが⊂⊃のとき
「B面」を再生した後、両面を4回繰り返し再生します。

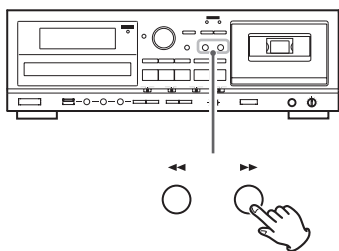
再生を一時停止するには

TAPE一時停止ボタン(❚❚)を押すと再生が一時停止します。
再びTAPE一時停止ボタン(❚❚)を押すか、またはTAPE再生ボタン(◄/►)を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

再生を停止するには

TAPE停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

カセットテープを取り出すには

カセットテープが停止中、または一時停止中に、TAPEのイジェクトボタン(▲ EJECT)を押してカセットホルダーを開き、カセットテープを取り出します。

● TAPEモード以外のときでも、カセットホルダーを開くことができます。

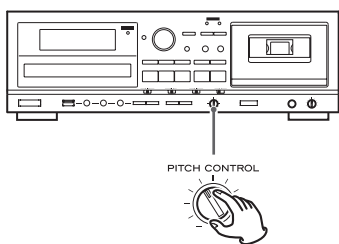
カセットテープを聴くには(続き)

巻戻し/早送りするには

巻戻しボタン(◀◀)、早送りボタン(▶▶)を押します。

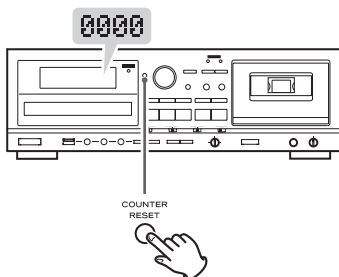
テープの最後まで巻戻し/早送りすると、停止します。途中で止めたいときは、TAPE停止ボタン(■)を押します。

- TAPEモード以外のときでも巻戻し/早送りできますが、録音中はできません。

ピッチコントロール

カセットテープの再生時にテープ走行速度(ピッチ)を変えることができます。

ピッチコントロールつまみを右に回すと、テープ走行速度が最大10%まで速くなり、音程が上がります。
左に回すと、テープ走行速度が最大10%遅くなり、音程が下がります。

- 録音中はこの操作はできません。

テープカウンター

カウンターリセットボタン(COUNTER RESET)を押すと、テープカウンターが「0000」にリセットされます。
テープの特定の位置を見つけるときに便利な機能です。

CDに録音するには

CD-RとCD-RW

	CD-R	CD-RW
書き込み可能回数	1回限り	繰り返し可能
曲の消去	不可能	可能
再生可能な機器	殆どの機器	CD-RW対応機のみ

CD-R（Compact Disc Recordable）

CD-Rディスクには一度だけしか録音できません。録音した曲を消去することもできません。ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(ただし、古いCDプレーヤーでは再生できないことがあります。)

CD-RW（Compact Disc-ReWritable）

CD-RWディスクは、録音した曲を消去することにより繰り返し使用することができます。ただし消去できるのは、全ての曲、または最後に録音した曲だけです。途中の曲だけを消去することはできません。録音が終わったCD-RWをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(ただし、CD-RW対応CDプレーヤーに限る)
ファイナライズ済みのCD-RWにもう一度録音したいときは、ファイナライズを取り消すことで再びCD-RWに録音することができるようになります。(37ページ)

デジタル録音するときのルール

シリアルコピーマネージメントシステム

(Serial Copy Management System)

民生用のデジタルオーディオ機器で利用されている、デジタルデータのコピー制御を行う著作権保護技術です。音楽ソフトの著作権を保護するため、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音すること
(コピー)」は「1世代まで」と規制されています。
「CD、MDなど市販のデジタル音楽ソフト」や、「アナログレコードやFM放送などをデジタル録音したもの」のコピーはできますが、コピーをさらにコピーすることはできません。

本機は、シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)の規格に準拠しています。

録音するときの注意

● CDの規格により、99曲までしか録音できません。100曲目を録音しようとすると、自動的に停止します。

● 10秒以下の曲は録音できません。

● 録音を開始してから10秒以内に停止ボタン(■)またはCD再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押した場合は、10秒になってから停止します。

● 録音を停止すると、「PMA WRITE」が数秒間点滅します。録音中および「PMA WRITE」の点滅中は、電源を切ったり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。(PMA : Program Memory Area)

● 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になったときは、自動的に停止します。

● 途中まで録音済みのディスクを入れた場合は、録音された部分の終わりから続けて録音されます。

● ファイナライズ済みのCD-RWに録音したいときは、アンファイナライズ(ファイナライズの取り消し)してください。(37ページ)

● オートトラック機能を使う場合、本機は設定したレベルに従って曲を区切ります。そのため、曲頭や曲間に無音部分のあるソースを録音すると、1曲あたりの長さ(再生時間)が一致しないことがあります。

● ライブアルバムのような連続した音楽では、マニュアルで曲番をつけると、曲番が繰り上がるところで音が途切れて録音されます。

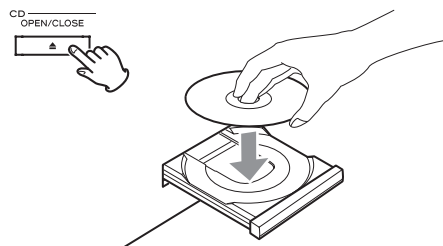
● 本機で録音したディスクを他のプレーヤーで再生した場合、トラック切り換わりの際に小さなノイズが発生することがあります。

● USBからCDへの録音はできません。

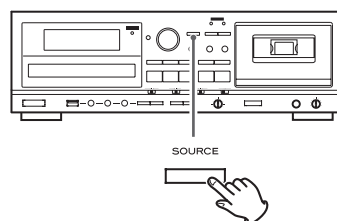
● タイマー録音では、CDへの録音はできません。

オートトラックのレベル

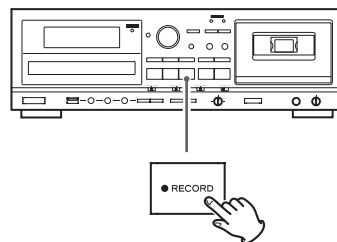
「外部機器からアナログ音声入力で録音する際にオートトラックで曲番を付けたいとき」や、「CD、MD、DATなどのデジタルソースをシンクロ録音(34ページ)するとき」に、曲と曲の間の「無音状態」として検出するための音量のレベルです。
この取扱説明書では、録音するソースのレベルが設定した値より低い状態のことを、無音状態と呼びます。
選択できる数値は、−60、−50、−40、−30dBです。

1 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットする。

開/閉ボタン(▲)を押すとディスクトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてから、開/閉ボタン(▲)を押してトレーを閉めてください。

ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は録音できません。

2 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、録音ソースを選ぶ。(TAPE、LINE IN、PHONOまたはDIGITAL)

● 録音中はソースを切換えできません。

● USBメモリーからCD-R/CD-RWへの録音はできません。

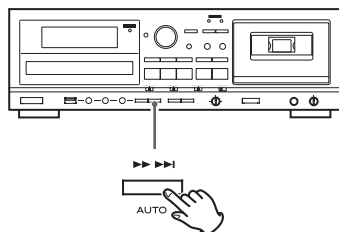
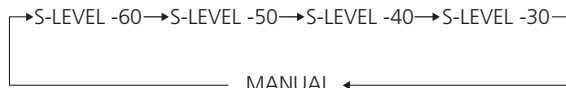
3 CD録音ボタン(●RECORD)を押して、録音待機状態にする。

ディスプレーの右にあるRECORD CDの赤いインジケーターと、ディスプレーの REC が点滅します。

● CD録音ボタン(●RECORD)を押したあとに「WAITING」と表示されますが、この表示中は他のボタンを押しても機能しません。「WAITING」表示が消えるまでお待ちください。2でデジタル入力(DIGITAL)を選択した場合は、「WAITING」が消えたあと、サンプリング周波数(FS 44_1K、FS 48Kまたは FS 32K)がしばらく表示されます。
● デジタル信号が認識されずに「OPTICAL UNLOCK」と表示された場合は、デジタル音声入力端子(DIGITAL IN)にデジタル機器を接続し、電源を入れてください。しばらくすると本機は録音待機状態になります。
● CD録音ボタン(●RECORD)を押しても録音できない場合は、録音

次のページに続きます ➡

CDに録音するには(続き)

可能なディスクに交換してください。ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してから再度CD録音ボタン(●RECORD)を押してください。

4 オートボタン(AUTO)を使って、曲番の付け方を選ぶ。

オートボタン(AUTO)を1回押すと、オートトラックの現在の設定が表示されます。他の設定を選ぶ場合は、オートボタン(AUTO)をくり返し押してください。

S-LEVEL : Sound LEVELの略

● 2秒経過すると元の表示に戻ります。

S-LEVEL -60/50/40/30(曲番が自動的に付きます)
オートトラックがオンになり、ディスプレーに「AUTO TRACK」が表示されます。数字はオートトラックのレベルを表します。
録音中に自動的に曲番が付きます。デジタル音声入力で曲の変わり目を検出した場合や、アナログ音声入力で3秒以上続けて無音状態(設定したレベル以下)になったあとに次の曲が始まった場合(音が設定したレベルより大きくなったとき)に、自動的に曲番を更新します。

MANUAL(曲番は自動的に付きません)
手動で曲番をつける場合は録音中に録音ボタン(RECORED)を押してください。(34ページ)

● デジタル音声入力、アナログ音声入力のそれぞれで別の設定にすることができます。
電源を入れたときの設定は、デジタル入力(DIGITAL)：－60dB、LINE IN：－50dB、TAPE：－40dB、PHONO IN：－30dBになります。

● 設定したS-LEVELは入力ソースを切り替えると電源を入れたときの設定に戻ります。

● CDを外部入力のデジタル入力(DIGITAL)で録音する場合は、CDのデジタル信号に従って曲番を付けますので、通常はオートトラックのレベルを変更する必要はありません。

● デジタル入力で録音する場合、ソース側のデジタル再生機によってはオートトラックをオンにしても曲番が付かないことがあります。その場合は手動で曲番を付けてください。(34ページ)

● デジタル放送など、トラック番号の付いていないソースをデジタル音声入力で録音する場合、オートトラックをオンにしても曲番は付きません。録音中に曲番を付けたいところでCD録音ボタン(●RECORD)を押して、曲番を付けてください。

● クラシックなど曲の初めや曲間に無音部分のあるソースをアナログ音声入力で録音する場合、オートトラックをオンにしてもうまく曲番を付けられないことがあります。その場合はオートトラックをオフにして、録音中に曲番を付けたいところでCD録音ボタン(●RECORD)を押して曲番を付けてください。

● レコードなどで時々大きな雑音があるソースでは、余分に曲番がついてしまう場合があります。

● 録音中はオートトラックのレベルの変更はできません。

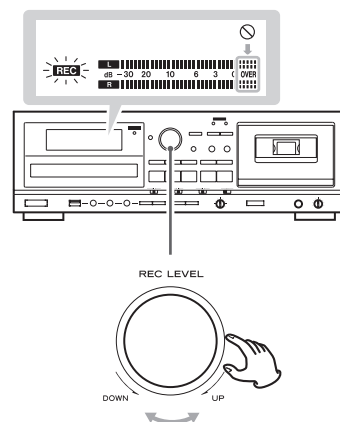
曲番がうまく付かない場合
雑音のあるソースをアナログ音声入力で録音するときに、オートトラックのレベルをその雑音の音量より下に設定してしまうと、曲番が付かないことがあります。その場合はオートトラックのレベルを高くしてください。

雑音が少なくて小さな音から始まる曲を録音するときに曲の頭が欠けてしまう場合は、オートトラックのレベルを低くしてください。

雑音(ノイズ)	小さい ←→			大きい
例	CD、MD			レコード、カセットテープ
S-LEVEL	-60	-50	-40	-30

5 (TAPE、LINE IN、またはPHONOからの録音の場合) 録音レベルを調節する。

録音の前に、録音レベルを調節してください。調節を行わないと、録音した音が歪んだり、雑音が入ってしまうことがあります。

1. 録音ソース(カセットテープ、LINE INまたはPHONOに接続した機器)を再生する。
2. 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を使って、最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが「OVER」に達しないように調節します。

● 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

● 録音ソースがDIGITALのときは録音レベルを調節することができません。

6 録音ソースを準備する。

本機のカセットデッキ部から録音する場合

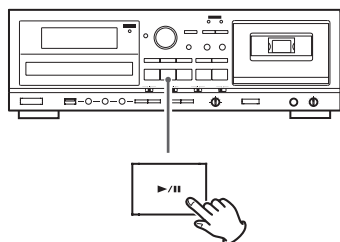
テープの全ての内容を録音するときは、テープを始めの位置まで巻き戻しておきます。
途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で停止または一時停止状態にしておきます。

ドルビー NRのオン/オフを選びます。(10ページ)

テープの片面分を録音する場合は、リバースモードを⇄にセットします。また、録音開始の方向をセットしておきます。(録音方向が違う場合は、TAPE再生ボタン(◀/▶)を押して方向を変え、すぐにTAPE停止ボタン(■)を押して止めておきます)。

テープの両面分を録音する場合は、リバースモードを⊐にセットします。また、再生開始の方向を▶にセットします。
再生開始の方向を◀にセットした場合、「B面」のみが録音されます。

7 CD再生/一時停止ボタン(▶/II)または録音ボタン(●RECORD)を押して、録音を開始する。

入力端子に接続した機器から録音する場合は、その機器の再生をすぐに開始してください。頭切れなど起きないようにタイミングを図ってください。

ディスプレーの右にあるRECORD CDの赤いインジケーターと、ディスプレーの REC の点滅が止まります。

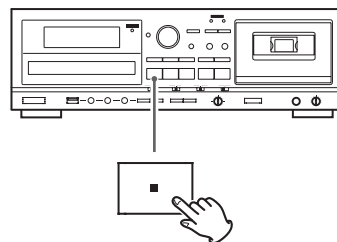
- 録音の途中でCD-R/RWの容量がなくなると、録音は自動的に停止します。
- 録音を一時停止するには、CD再生/一時停止ボタン(▶/II)を押します。もう一度押すと録音を再開します。

本機のカセットデッキから録音する場合

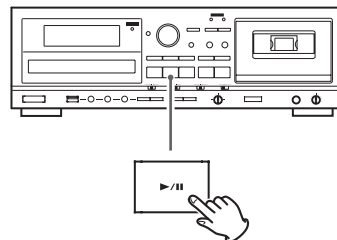
カセットテープの再生が終わると、録音は自動的に停止します。
録音を途中で停止するには、CD停止ボタン(■)を押します。この場合、再生中のカセットテープも同時に停止します。

入力端子に接続した機器から録音する場合

ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。CD停止ボタン(■)を押して録音を停止してください。

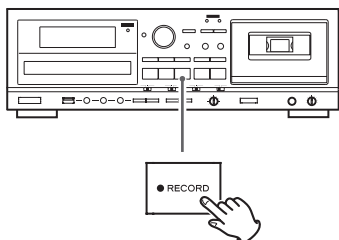
録音を停止するには

CD停止ボタン(■)を押すと録音が停止します。

- 録音が終わったCD-R/RWはファイナライズしなくても再生が可能です。録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、本機以外のCDプレーヤー(CD-R/RW対応機)でも再生できるようになります。(36ページ)
- ファイナライズ済みのCD-RWにもう一度録音したいときは、ファイナライズを取り消すことで再びCD-RWに録音することができるようになります。(37ページ)
- 1曲の長さは最低10秒必要です。曲の始めから10秒以内にCD停止ボタン(■)を押しても10秒間録音してから停止します。
- CD-R/CD-RWのディスク一杯に録音した時は、CDを取り出さずにファイナライズしてください。

録音を一時停止するには

CD再生/一時停止ボタン(▶/II)を押すと、「WAITING」がしばらく表示されたあと、録音が一時停止します。
CD再生/一時停止ボタン(▶/II)を押すと、録音を再開します。

- 「WAITING」の表示中は録音を再開できません。
- 録音を一時停止するたびに、新しい曲番が付きます。

CDに録音するには(続き)

録音中に手動で曲番を付けるには

録音中にCD録音ボタン(●RECORD)を押すと、曲を分割して新しい曲番を付けることができます。

- CD録音ボタン(●RECORD)は、オート/マニュアルの設定(32ページ)に関係なく使えます。
- 1曲の長さは最低10秒必要です。曲の始めから10秒以内にCD録音ボタン(●RECORD)を押しても曲番は付きません。

CDにシンクロ録音するには

シンクロ録音機能とは、CDプレーヤーやMDデッキなど外部に接続した機器からアナログ信号やデジタル信号を受信すると自動的に録音を開始し、信号が止まると録音を停止する便利な機能です。

CDやMD、DATの場合

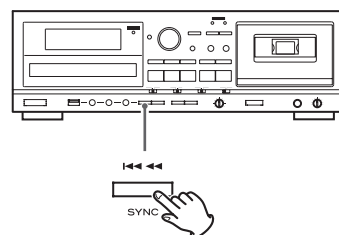
デジタル信号で曲の始まりを検出するとシンクロ録音を開始します。また、オートトラックのレベル(32ページ)で設定した値よりも小さな音(無音状態)が8秒続くとシンクロ録音を停止します。

上記以外のデジタルソースおよびアナログソースの場合

オートトラックのレベルで設定した値よりも大きな音を検出した時点でシンクロ録音を開始します。また、オートトラックのレベルで設定した値よりも小さな音(無音状態)が8秒続くと録音を停止します。

1 「CDに録音するには」1～5の手順で設定を行い、CD停止ボタン(■)を押す。

- 録音するソースがデジタル入力(DIGITAL)のとき録音レベルを調節できなため 4、5 (録音レベルの調節の操作)は省略します。

2 シンクロ録音ボタン(SYNC)を押してSYNCまたはSYNC ALLを選ぶ。

シンクロ録音ボタン(SYNC)を押すたびに、以下のようにシンクロ録音のモードが変わります。

→ALL → ONE → OFF ─┐(ALLに戻る)

3つのモードから選べます。

ALL
全曲シンクロ録音します。

ONE
一曲のみシンクロ録音をして録音を停止します。

OFF
シンクロ録音しません。

3 録音ソースを準備する。

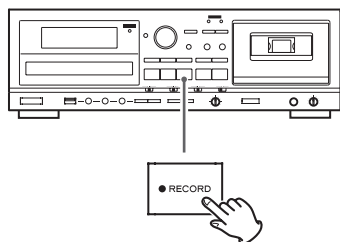
本機のカセットデッキ部から録音する場合

テープの全ての内容を録音するときは、テープを始めの位置まで巻き戻しておきます。
途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で停止または一時停止状態にしておきます。

ドルビー NRのオン/オフを選びます。(10ページ)

テープの片面分を録音する場合は、リバースモードを⇄にセットします。また、録音開始の方向をセットしておきます。(録音方向が違う場合は、TAPE再生ボタン(◀/▶)を押して方向を変え、すぐにTAPE停止ボタン(■)を押して止めておきます)。

テープの両面分を録音する場合は、リバースモードを⊃にセットします。また、再生開始の方向を▶にセットします。
再生開始の方向を◀にセットした場合、「B面」のみが録音されます。

4 CD録音ボタン(●RECORD)を押して、録音待機状態にする。

ディスプレーの右にあるRECORD CDの赤いインジケーターと、ディスプレーの REC が点滅します。

- CD録音ボタン(●RECORD)を押したあとに「WAITING」と表示されますが、この表示中は他のボタンを押しても機能しません。「WAITING」表示が消えるまでお待ちください。2でデジタル入力(DIGITAL)を選択した場合は、「WAITING」が消えたあと、サンプリング周波数(FS 44_1K、FS 48Kまたは FS 32K)がしばらく表示されます。
- デジタル信号が認識されずに「OPTICAL UNLOCK」と表示された場合は、デジタル音声入力端子(DIGITAL IN)にデジタル機器を接続し、電源を入れてください。しばらくすると本機は録音待機状態になります。
- CD録音ボタン(●RECORD)を押しても録音できない場合は、録音可能なディスクに交換してください。ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してから再度CD録音ボタン(●RECORD)を押してください。

5 録音するソースを再生する。

シンクロ録音がスタートします。
ソースの再生が終了し無音部分が8秒以上続くと、シンクロ録音は終了します。

- 手動でシンクロ録音を停止するにはCD停止ボタン(■)を押してください。

- シンクロ録音が終了すると、シンクロ録音モードは解除されます。

- 録音中はシンクロモードの切換え(1/ALL)はできません。

- SYNC ALLを選択するとオートトラックがオンになり、オートトラックのレベルは−60dB(アナログ音声入力は−50dB)に設定されます。オートボタン(AUTO)でオートトラックのレベルを選択してください。

- オートボタン(AUTO)でマニュアルを選択してからシンクロ録音をするとオートトラックがオンになり、オートトラックのレベルは−60dB(アナログ音声入力は−50dB)に設定されます。シンクロ録音が終了すると、自動的に設定がMANUALに戻ります。

- デジタルソースの再生機によってはシンクロ録音機能が働かない場合があります。その場合は手動で録音を開始、停止してください。

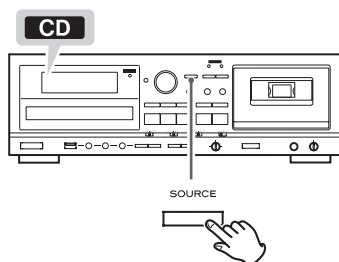
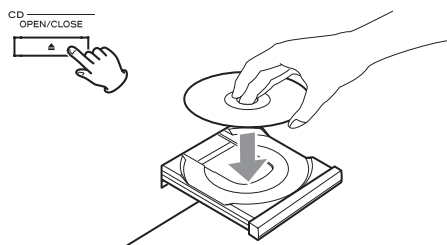
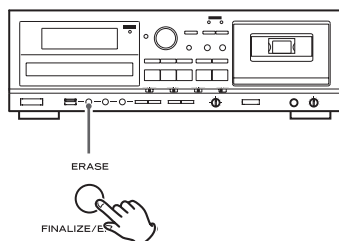
- ソースによっては、無音状態を検知して途中で録音が止まったり、頭が欠けてしまうことがあります。
そのような場合はオートトラックの設定をMANUALにして、手動で録音してください。

ファイナライズする

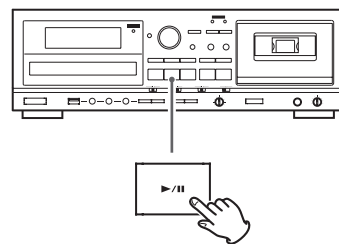
ファイナライズとは、TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することです。

CD-Rをファイナライズすると、本機以外のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズされたCD-Rにはそれ以上録音することができません。

CD-RWをファイナライズすると、本機以外のCD-RW対応のCDプレーヤーで再生できるようになります。

1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、CDモードを選ぶ。

2 ディスクをセットする。

3 ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押す。

ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を1回押す。
ディスプレーに「FINALIZE」と表示されます。

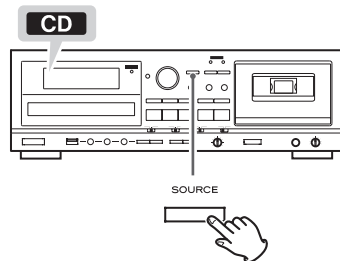
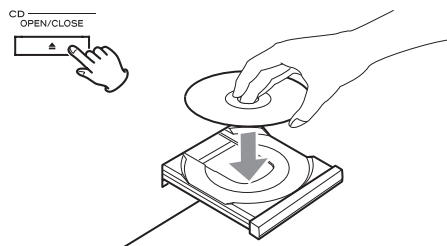
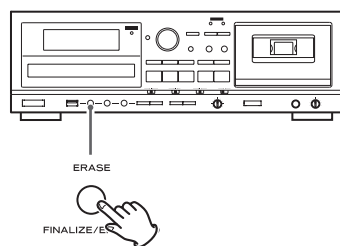
- ディスプレーの表示が「UNFINALIZE」のときは、ファイナライズされているディスクですので、ファイナライズの必要はありません。
- ここで中断したい場合は停止ボタン(■)を押してください。

4 CD再生/一時停止ボタン(►/II)を押す。

ファイナライズが開始されます。
ファイナライズが完了すると、ディスプレイに「COMPLETE」と表示した後、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

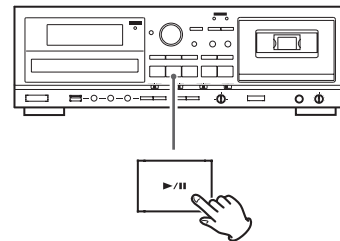
- ファイナライズ中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。
- ファイナライズ中は、ボタンを押しても機能しません。

アンファイナライズ(CD-RWのみ)する

ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください。
アンファイナライズ(ファイナライズを取り消す作業)すると、再びCD-RWに録音したり消去することができるようになります。

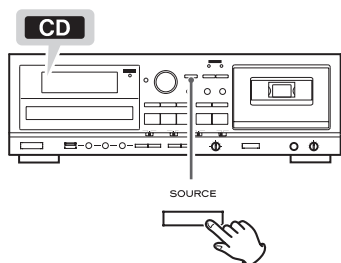
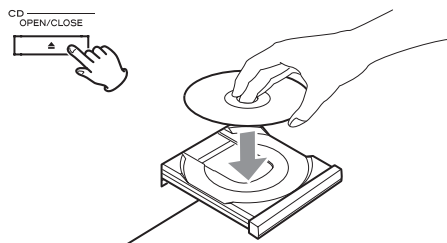
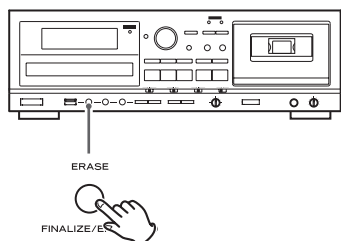
1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、CDモードを選ぶ。

2 ファイナライズ済みのCD-RWディスクをセットする。

3 ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押す。

ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を1回押す。
ディスプレーに「UNFINALIZE」と表示されます。

- ディスプレーの表示が「FINALIZE」のときは、ファイナライズされていないディスクですので、アンファイナライズの必要はありません。
- ここで中断したい場合は停止ボタン(■)を押してください。

4 CD再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押す。

アンファイナライズが開始されます。
アンファイナライズが完了すると、ディスプレイに「COMPLETE」と表示した後、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

- アンファイナライズ中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。
- アンファイナライズ中は、ボタンを押しても機能しません。

曲を消去する(CD-RWのみ)

1 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、CDモードを選ぶ。

2 CD-RWをセットする。

3 ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押す。

● ファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押すたびに、ディスプレーの表示が下記の順で変わります。

● ファイナライズ済みのディスクをセットした場合、「UNFINALIZE」と表示されます。このままでは消去できませんのでディスクをアンファイナライズしてください。(37ページ)

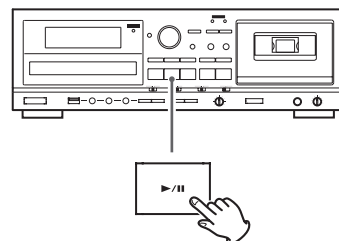
最後の曲を消去する

ディスプレーに「ERASE」の文字と最後の曲番の数字が表示されるまでファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押す。

● 選択した曲番から最後の曲番までまとめて消去することもできます。そのときはスキップボタン(⏮ / ⏭)で消去を開始する曲番を選択してください。(途中の曲だけ消去することはできません。)

全ての曲を消去する(通常モード)

ディスプレーに「ERASE DISC」と表示されるまでファイナライズ/消去ボタン(FINALIZE/ERASE)を押す。

4 CD再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押す。

曲が消去されます。
消去が完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

● 消去中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。

● 消去中は、ボタンを押しても機能しません。

● 消去の操作は取り消しが出来ません。ディスクの内容を充分に確認してから行ってください。

USBメモリーに録音するには

本機では、CD、カセットテープ、外部入力端子またはデジタル入力に接続した機器(チューナーやレコードプレーヤーなど)の音声をMP3形式にして、USBメモリーに録音することができます。

- 本機にはCD-R/RW、カセットテープへの録音機能もありますが、USBとCD-R/RW、カセットテープに同時に録音をすることはできません。
- タイマー録音では、CD、USBメモリーへの録音はできません。

⚠ 注 意
USBメモリーの録音中には、絶対に電源をオフにしたり、USBメモリーを抜いたりしないでください。
本機やUSBメモリーが故障する恐れがあります。

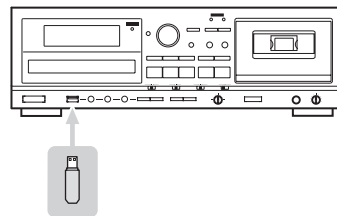
録音されるMP3ファイルについて

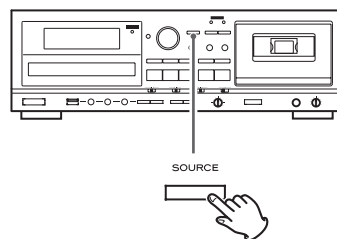
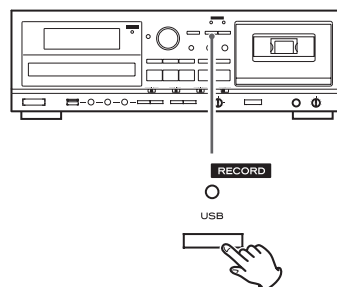
- 録音すると、「RECORD」フォルダーと、その中にそれぞれのソースの名前のついたサブフォルダー(「CD」、「TAPE」、「LINE」「PHONO」、または「DIGITAL」)が自動的に生成されます。
  そのサブフォルダー中にMP3形式のファイルが生成されます。
- ファイル名は、末尾に自動的に順番の数字が付けられ記録されます。

  CDからの録音の場合
  「CD001.MP3」、「CD002.MP3」......
  (すでにUSBメモリーのフォルダーに「CD004.MP3」と「CD009.MP3」が記録されている場合、次に録音したときに記録されるファイル名は「CD010.MP3」となります)
  - 曲の途中から録音したとき、ディスプレーに表示される「録音中の曲の経過時間」は「再生中の曲の経過時間」と同じ表示になります。

  カセットテープからの録音の場合
  「T001.MP3」、「T002.MP3」......

  ライン入力端子に接続した機器からの録音の場合
  「L001.MP3」、「L002.MP3」
- テープとライン入力端子に接続した機器からの録音では、録音中に手動でファイルを分割して新しい曲番を付けることができます。(41ページ)
  その場合のファイル名は、末尾の数字が繰り上がります。
  (例えば、「T001.MP3」を録音中に手動で分割した場合は、新しい曲番は「T002.MP3」になります)
- 本機では999ファイルまで録音することができます。ただし、USBメモリーにすでにファイルがある場合、そのファイル数と合わせて999ファイルまで録音可能です。
- 1つのファイルの録音時間は600分未満です。
- MP3ファイルのビットレートは128kbpsです。

1 本機のUSBメモリー用端子に、USBメモリーを接続する。

- USBメモリーの空き容量がない場合や、USBメモリーがロックされている場合は録音できません。
- 本機でUSBメモリーの容量を確認することはできません。録音の前に、あらかじめUSBメモリーの容量をパソコンで確認してください。

2 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、録音ソースを選ぶ。(CD、TAPE、LINE IN、PHONOまたはDIGITAL)

3 USB録音ボタン(RECORD USB)を押して、録音待機状態にする。

USB録音ボタン(RECORD USB)の上の赤いインジケーターと、ディスプレーの REC が点滅します。

- 録音を停止するには、USB停止ボタン(■)を押します。

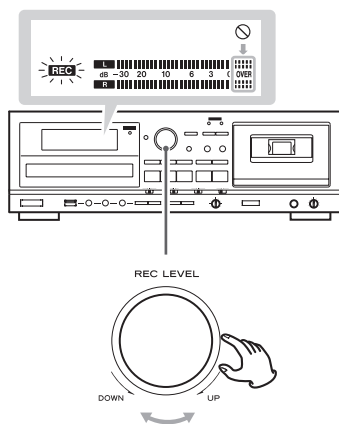
CD USB 録音

次のページに続きます →

USBメモリーに録音するには(続き)

4 (カセットテープ、またはライン入力端子に接続した機器からの録音の場合)
録音レベルを調節する。

録音の前に、録音レベルを調節してください。これを行わないと、録音した音が歪んだり、雑音が入ってしまうことがあります。

1. 録音ソース(カセットテープ、またはライン入力端子に接続した機器)を再生する。
2. 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を使って、最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが「OVER」に達しないように調節します。

- 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。
- 以下の録音では、録音レベルを調節することができません。
  - CDからの録音
  - DIGITAL IN端子に接続した機からの録音

5 録音ソースを準備する。

CDから録音する場合
ディスクの全ての曲を録音するときは停止状態にしておきます。
途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で一時停止状態にしておきます。
プログラムした順番での録音もできます。(プログラム方法については24ページをご覧ください。)

カセットテープから録音する場合
テープの全ての内容を録音するときは、テープを始めの位置まで巻き戻しておきます。
途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で停止または一時停止状態にしておきます。

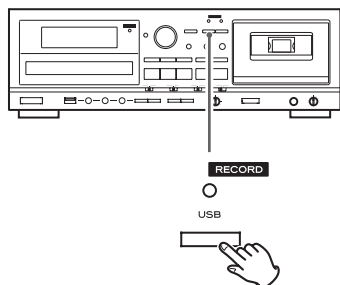
ドルビー NRのオン/オフを選びます。(10ページ)

片面のみの録音の場合は、リバースモードを⥂にセットします。
また、TAPE再生ボタン(◀/▶)で録音開始の方向をセットし、TAPE停止ボタン(■)を押します。
両面の録音の場合は、リバースモードを⊐にセットします。また、TAPE再生ボタン(▶)で録音開始の方向を▶にセットします。
録音開始の方向を◀にセットした場合、「B面」のみが録音されます。

ライン入力端子に接続した機器から録音する場合
接続した機器の再生を準備します。

例
アンプの入力ソースをセットする
プレーヤーにディスクをセットする
チューナーの選局をする

6 USB録音ボタン(RECORD USB)を押して、録音を開始する。

ライン入力端子に接続した機器から録音する場合は、接続した機器の再生も開始してください。

USB録音ボタン(RECORD USB)の上の赤いインジケーターと、ディスプレーの REC の点滅が止まります。

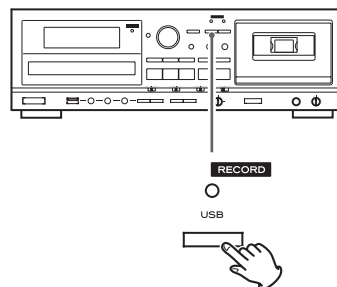
- 録音の途中でUSBメモリーの空き容量がなくなると、録音は停止します。

- 録音を一時停止するには、USB一時停止ボタン(▶/⏸)を押します。もう一度押すと録音を再開します。

CDまたはカセットテープから録音する場合
ソースの再生が終わると、録音は自動的に停止します。
録音を途中で停止するには、USB停止ボタン(■)を押します。この場合録音ソースの再生も停止します。

ライン入力端子に接続した機器から録音する場合
ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。USB停止ボタン(■)を押して録音を停止してください。

録音中に手動で曲番を付けるには

テープとライン入力端子/フォノ入力端子に接続した機器からの録音中または録音一時停止中にUSB録音ボタンを(RECORD USB)押すと、曲を分割して新しいファイル名を付けます。
曲の分割には数秒かかります。
CDからの録音では、曲を分割することはできません。(CDからの録音は自動的にトラックごとに分割されます)

入力端子に接続した機器からの録音の場合
曲が分割される間、録音が途切れます。

- 分割した後の新しいファイル名は、末尾の数字が繰り上がります。

例
「T001.MP3」の録音の途中でUSB録音ボタンを押したときは、新しいファイル名は「T002.MP3」となります。

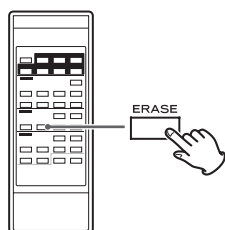
次のページに続きます

USBメモリーからファイルを消去するには

⚠ 注 意
USBメモリーのファイルの消去中には、絶対に電源をオフにしたり、USBメモリーを抜いたりしないでください。
本機やUSBメモリーの故障の原因になります。

ファイルを１つずつ消去するには

1 消去したいファイルを再生する。(21ページ)

2 消去ボタン(ERASE)押す。

ディスプレーに「Erase file?(ファイルを消去しますか?)」と表示されます。

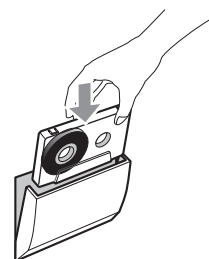
3 6秒以内に消去ボタン(ERASE)を押す。

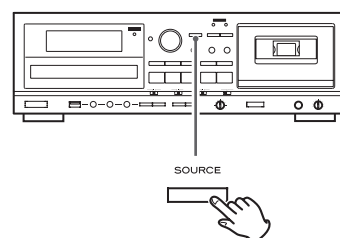
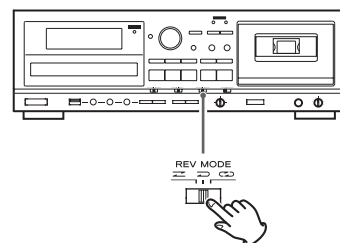
ディスプレーに「Erasing（消去中)」と表示されます。
再生中のファイルが消去され、再生が停止します。

カセットテープに録音するには

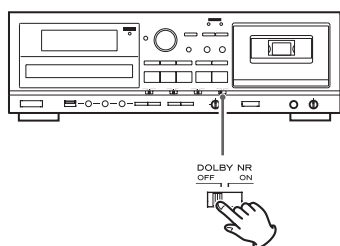
本機では、CD、カセットテープ、外部入力端子またはデジタル入力に接続した機器((チューナーやレコードプレーヤーなど)の音声をカセットテープに録音することができます。
ノーマル(タイプ I)、またはクローム(タイプ II)のテープに録音することができます。メタルテープ(タイプ IV)には本機では録音できません。

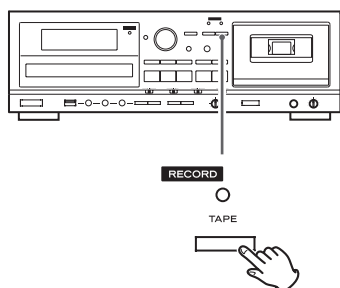
- 片面のみの録音、または両面の録音ができます。
- 本機にはCD、USBメモリーへの録音機能もありますが、カセットテープとCD、USBに同時に録音をすることはできません。

1 カセットホルダーにカセットテープを入れる。

- 誤消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

2 ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、録音ソースを選ぶ。(CD、USB、LINE IN、PHONOまたはDIGITAL)

3 リバースモードスイッチ(REV MODE)でリバースモードを選び、録音開始の方向を選ぶ。

片面のみに録音の場合は、リバースモードを⇄にセットします。また、録音開始の方向をセットしておきます。(録音方向が違う場合は、TAPE再生ボタン(◀/▶)を押して方向を変え、すぐにTAPE停止ボタン(■)を押して止めておきます)。

両面への録音の場合は、リバースモードを⊃にセットします。
また、録音開始の方向を▶にセットします。
録音開始の方向を◀にセットした場合、「B面」のみに録音されます。

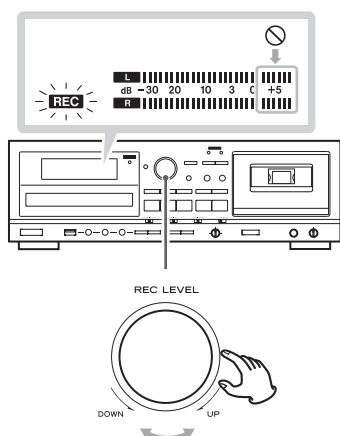
4 ドルビー NRのオン/オフを選ぶ。

ドルビー NRについては、10ページをご覧ください。

5 テープ録音ボタン(RECORD TAPE)を押して、録音待機状態にする。

テープ録音ボタン(RECORD TAPE)の上の赤いインジケーターと、ディスプレーの REC が点滅します。

- 録音を停止するには、TAPE停止ボタン(■)を押します。

6 録音レベルを調節する。

録音の前に、録音レベルを調節してください。これを行わないと、録音した音が歪んだり、雑音が入ってしまうことがあります。

1. 録音ソースを再生する。
2. 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を使って、最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが継続的に「0」を超えないように調節します。

- 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

7 録音ソースを準備する。

CDから録音する場合

ディスクの全ての曲を録音するときは停止状態にしておきます。

途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で一時停止状態にしておきます。

プログラムした順番での録音もできます。プログラム方法については24ページをご覧ください。

USBメモリーから録音する場合

USBメモリーの全ての曲を録音するときは、停止状態にしておきます。

途中から録音したいときは、録音したい部分の頭で一時停止状態にしておきます。

プログラムした順番での録音もできます。プログラム方法については24ページをご覧ください。

- MP3ファイルの再生順については47ページをご覧ください。

ライン入力端子に接続した機器から録音する場合

機器の再生を準備します。

例

アンプの入力ソースをセットする

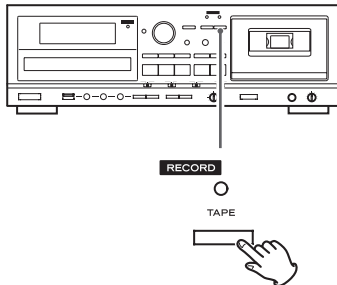
プレーヤーにディスクをセットする

チューナーの選局をする

次のページに続きます

カセットテープに録音するには(続き)

8 **テープ録音ボタン(RECORD TAPE)を押して、録音を開始する。**

入力端子に接続した機器から録音する場合は、機器の再生も開始してください。

テープ録音ボタン(RECORD TAPE)の上の赤いインジケーターと、ディスプレーの REC の点滅が点灯になり、録音が開始されます。

⚠ **注 意**
録音中には、絶対に電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。
本機や接続した機器の故障の原因になります。

- 録音を一時停止するには、TAPE一時停止ボタン(❚❚)を押します。もう一度押すと録音を再開します。

CDまたはUSBメモリーから録音する場合
ソースの再生が終わると、録音は自動的に停止します。
録音を途中で停止するには、TAPE停止ボタン(■)を押します。この場合録音ソースの再生も停止します。

両面への録音中に、曲の途中で「A面」が終わった場合は、録音途中の曲の頭に戻って「B面」に録音を始めます。

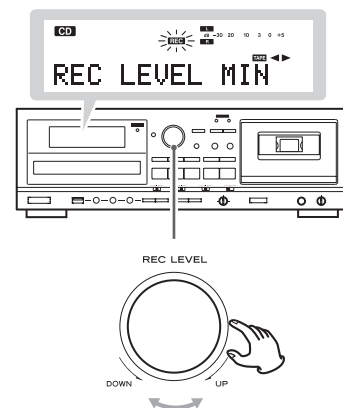
ライン入力端子に接続した機器から録音する場合
ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。TAPE停止ボタン(■)を押して録音を停止してください。

録音を消去するには

すでに録音されたテープの上から新しく録音すると、録音されていた内容は上書きされます。
録音レベルを最小(MIN)にして録音をすることにより、録音内容を消去することができます。

- 録音ソースが無音の状態で行うことを推奨します。

1 **テープ録音ボタン(RECORD TAPE)を押して、録音待機状態にする。**

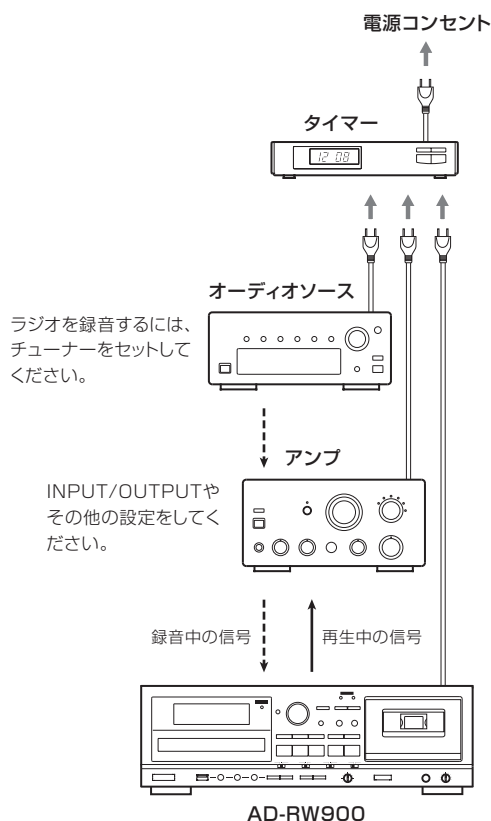
2 **録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を最小(MIN)に合わせる。**

3 **TAPE再生ボタン(◄/►)を押して、消去を開始する。**

タイマー再生/録音

市販のオーディオタイマーを接続して、設定した時間に再生や録音を開始することができます。

- タイマー再生のソースは、CD、カセットテープ、USBメモリーのみです。外部接続機器をタイマー再生することはできません。
- タイマー録音のソースは、ライン入力端子に接続した機器のみです。また、カセットテープにのみ録音できます。（USBメモリーやCD-R/RWには録音することができません）

接 続

下図を参考に、機器を接続してください。

⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因になるため、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。

タイマー再生（CD USB TAPE）

- タイマー再生のソースは、CD、カセットテープ、USBメモリーのみです。入力端子に接続した機器をタイマー再生することはできません。

1 前のページの接続図を参考にして、AD-RW900と機器を市販のオーディオタイマーに接続する。

設定の間はオーディオタイマーのアウトレットは通電状態にしておいてください。

2 全ての機器の電源をオンにする。

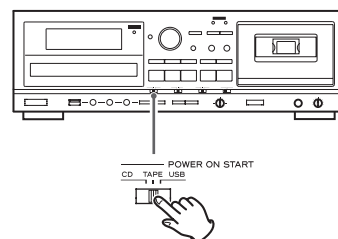
3 タイマー再生したいソースをセットする。

カセットテープをセットする場合

リバースモードをセットします。両面を連続して再生したい場合は、⊂⊃にセットします。

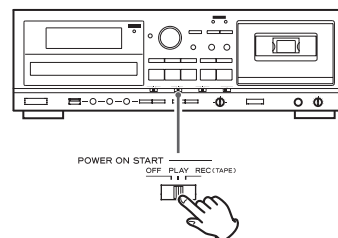
DOLBY NRスイッチをセットします。（10ページ）

再生は常に「A面」から始まります。

4 ソース設定スイッチ（CD-TAPE-USB）を再生したいソースにセットする。

5 タイマー設定スイッチ（OFF-PLAY-REC）を「PLAY」にセットする。

AD-RW900のディスプレーに「TIMER」と表示されます。

テープ

録音

6 オーディオタイマーのオン/オフの時間を設定する。

設定を終了したらタイマーからの電源供給をすべてオフにしてください。

このとき、AD-RW900の電源ボタン(POWER)を押さないでください。
ボタンは押されたままの状態(オンの位置)のままにしておいてください。オフの状態になっていると、タイマー再生は動作しません。

タイマーオンの時間になると、接続した機器に電源が供給され、再生が始まります。

- タイマーを使わないときは、タイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)をOFF(オフ)にセットしてください。

タイマー録音(LINE IN ➡ TAPE)

- タイマー録音のソースは、入力端子に接続した機器のみです。また、カセットテープにのみ録音できます。
- 録音レベルは0dBで録音されます。調節はできません。

(例: ラジオ放送のタイマー録音)

1 前のページの接続図を参考にして、AD-RW900と機器を市販のオーディオタイマーに接続する。

2 全ての機器の電源をオンにする。

3 タイマーで録音したいカセットテープをセットする。

常に「A面」から録音されます。

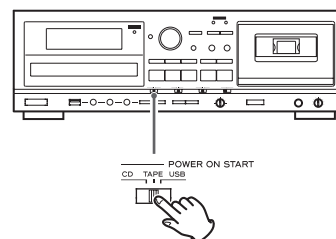
片面のみに録音の場合は、リバースモードを⇄にセットします。
両面への録音の場合は、リバースモードを⊐または⊂⊃にセットします。

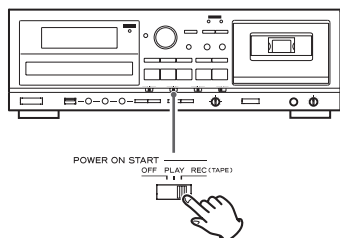
DOLBY NRスイッチをセットします。(10ページ)

消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

ノーマル(タイプ I)、またはクローム(タイプ II)のテープに録音することができます。

ご注意
前回の使用の時、テープが「B面」の途中で終わっていると、録音は「A面」の途中から始まってしまいます。大切な録音を誤って消してしまわないようご注意ください。(特に、2回以上連続してタイマー録音する場合にご注意ください)

4 ソース設定スイッチ(CD-TAPE-USB)を「TAPE」にセットする。

- CDやUSBメモリーには録音できません。カセットテープにのみ録音できます。

5 タイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)を「REC」にセットする。

AD-RW900のディスプレーに「TIMER」と REC インジケーターが表示されます。

6 録音したい放送局を選局する。
(ラジオ放送の録音の場合)

8 オーディオタイマーのオン/オフの時間を設定する。

この設定を終了すると、接続したすべての機器の電源がオフになります。

このとき、AD-RW900の電源ボタン(POWER)を押さないでください。
ボタンは押されたままの状態(オンの位置)のままにしておいてください。オフの状態になっていると、タイマー録音は動作しません。

タイマーオンの時間になると、電源が接続した機器に供給され、録音が始まります。

- タイマー機能を使わないときは、大切なカセットテープに誤って上書き録音しないように、必ずタイマー設定スイッチ(OFF-PLAY-REC)をOFF(オフ)の位置にしておいてください。

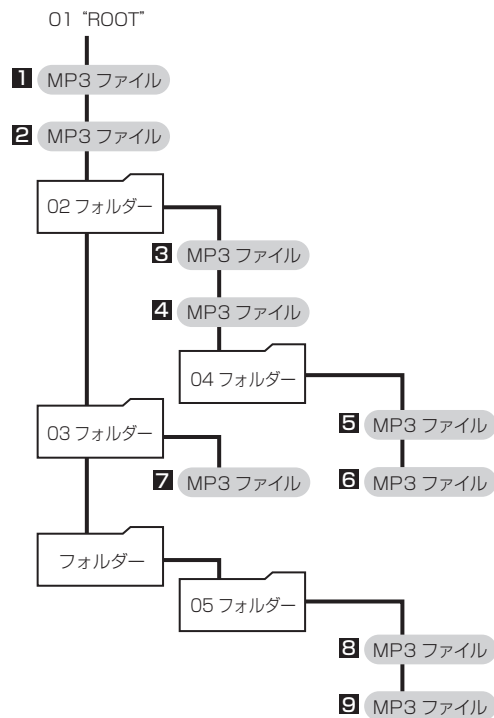
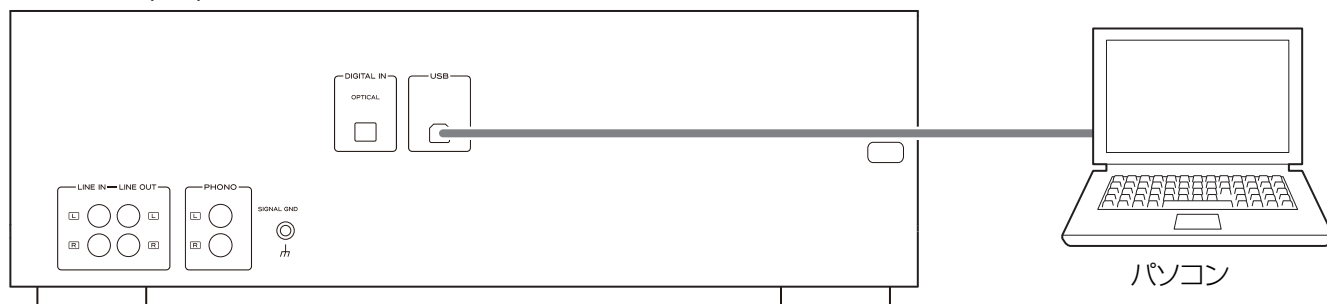
MP3ディスクの再生順

MP3ファイルを収録したCD-R/RWやUSBメモリーには、通常のパソコンのファイルの扱いと同じように、MP3ファイルをフォルダーに格納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダーをまとめて1つのフォルダーに収めているものもあります。

本機でMP3ディスクを再生するときのフォルダー番号とファイルの再生順(1～9)の例

録音
タイマー

パソコンで録音するには

接続図

本体背面に音声信号を出力するためのUSBポートがあります。USBケーブルでパソコンに接続すると、本装置の音声信号がデジタルデータに変換されてパソコンに送信されます。

- 接続には市販のケーブルをお使いください。

パソコンと接続する

1 パソコンの電源を入れる。

OSが正常に起動したことを確認してください。

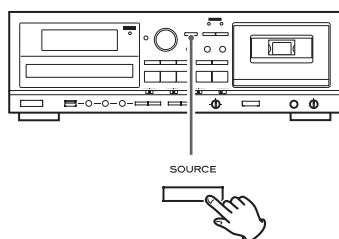
2 USBケーブルでパソコンと本機を接続する。

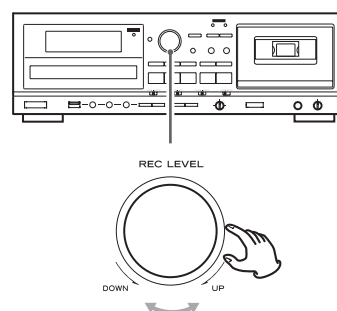
3 本機のPOWERを押して電源をオンにする。

パソコンと本機を接続した場合は、パソコン側で本機のUSBポートを自動検出し、「USB Audio CODEC」として認識されます。

- 本機の音声をパソコンで録音するには「音声編集ソフト」をパソコンにインストールする必要があります。

録音ソースの選択

本機で再生中の音声がパソコンへ送信されます。
SOURCEボタンを押して、再生するソースを選んでください。(18ページ)

録音レベルの調節

パソコンとUSB接続しているときは、録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)で、本機からパソコンへ送信する音声データのレベルを調節します。

パソコンの録音ソフトまたはパソコンから再生される本機の音声を確認し、LEVELつまみを回して音がひずまない程度の大きさに調節してください。

- パソコンとUSB接続しているときでも、録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)は録音待機状態または録音中のときには録音レベルを調節します。

- パソコンの録音ソフトで録音レベルの調節ができる場合は、あらかじめ録音ソフトの録音レベルを中ぐらいにして本機の送信レベルを調整してください。

- パソコンにUSBで接続して音声を録音しているときに、下記の操作を行わないでください。パソコンの誤動作の原因となります。これらの操作は必ずパソコンの録音ソフトを終了してから行ってください。
  - USBケーブルを抜く
  - 本機の電源をオフにする

● 音量設定が高い場合は音が歪みますので、Windows のコントロールパネルの音量調整を行ってください。

設定方法 (Windows7 の場合)

下記の方法で設定を行ってください。

1 **画面左下のWindowsマークの上にマウスポインターを持っていき、クリック(《スタート》)する。**

2 **《コントロールパネル》→《サウンド》→《録音》タブ→《マイク/USB Audio CODEC》→《プロパティ》ボタン→《マイクのプロパティ》の《レベル》タブ**

3 **マイク音量を音が歪まないように設定する。**

● 第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。

一般

電源が入らない。
➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。差し込みが不完全ではないかを確認してください。

リモコンで操作できない。
➡ 電源ボタン(POWER)を押して、本体の電源をオンにしてください。
➡ 電池が消耗していたら、新しい電池に交換してください。
➡ リモコンは本体の正面から5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できませんので、位置を調整してください。
➡ 本体の近くに強い光の照明がある場合は、照明を切ってください。

テレビなどが誤動作する。
➡ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。その場合は本体のボタンをお使いください。

ボタンを押しても反応しない。
➡ 動作中は、ボタンを押しても反応しないことがあります。しばらく待ってから再度ボタンを押してください。

音が出ない。または小さな音しか出ない。
➡ アンプとの接続を確認してください。
➡ スピーカーや他の機器との接続を確認してください。
➡ 接続した機器の操作が正しいか確認してください。
➡ スピーカーケーブルの⊕/⊖がショートしていないか確認してください。
➡ ソース切換ボタン(SOURCE)を押して、ソースを選んでください。

雑音がする。
➡ テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

CDレコーダー

再生できない。
➡ ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 何も録音されていないディスクが入っている場合は、録音されているディスクを入れてください。
➡ ディスクの品質や録音状態によっては、CD-R/CD-RWを再生できないことがあります。
➡ 本機以外で録音されて、ファイナライズされていないCD-R/CD-RWは再生できません。
➡ 本機の内部が結露している場合は、電源を入れて1、2時間放置してください。

次のページに続きます ➡

困ったときは(続き)

音飛びがする。

➡ 震動を与えると音飛びする場合があります。本機は安定した場所に設置してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 傷が付いたり、ヒビが入っているディスクは使わないでください。

録音できない。

➡ ファイナライズ済みの CD-R には録音できません。ディスクを交換してください。
➡ CD-R の録音残り時間が足りない場合は、ディスクを交換してください。
➡ ファイナライズ済みの CD-RW には録音できません。アンファイナライズするか、ディスクを交換してください。
➡ TAPE、LINE IN、PHONO 録音レベルを調節してください。(32 ページ)
➡ CD-RW の録音残り時間が足りない場合は、最後のほうの曲をいくつか消去するか、ディスクを交換してください。
➡ シンクロ録音では、オートトラックのレベルより小さい音量の間は、録音が始まりません。(31 ページ)

CDなどから録音したときに、元のものと曲の数や長さが違う。

➡ 本機では、曲の頭をオートトラックのレベルで検出するので、無音部分では曲番がつかないことがあります。(31 ページ)

カセットテープ

カセットホルダーが閉まらない。

➡ カセットテープが正しくセットされていないと閉まりません。正しく入れ直してください。無理に押し込むと故障する恐れがあります。

音質が悪い。

➡ ヘッドをクリーニングしてください。(7ページ)
➡ DOLBY NRスイッチが、録音したときと同じ位置にあるか確認してください。

再生スピードが速い/遅い

➡ ピッチコントロールの設定を確認してください。(30ページ)

オートリバースしない

➡ リバースモードを⊐またはⅭ⊃にセットしてください。
➡ リバースモードが⊐に設定されているときは、再生は常に手前側(「A面」)から始まります。

録音できない。

➡ 消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。
➡ 録音レベルを確認してください。(43ページ)

USBメモリー

USB再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押しても、再生できない。

➡ USBメモリーにMP3ファイルが記録されているか確認してください。
➡ ファイルのフォーマットを確認してください。本機で再生できるのは、MP3またはWMAファイルです。AAC、WAVなどMP3以外のファイルは再生できません。

録音できない。

➡ USBメモリーに空き容量があるか確認してください。
➡ USBメモリーがロックされていないか確認してください。
➡ TAPE、LINE IN、PHONOの場合は録音レベルが上がっていることを確認してください。(40ページ)

MP3/WMA

ファイル名が正しく表示されない。

➡ ファイル名に日本語や中国語などの全角文字(2バイト文字)や、半角カタカナなどの英数字以外の1バイト文字が使われている場合はディスプレーに正しく表示できません。(再生は可能です。)

MP3

曲名、アーティスト名、アルバム名が表示されない。

➡ ファイルにID3タグが入っていません。パソコンなどでID3タグを編集したMP3ファイルを作成し直してください。本機で録音したファイルにはID3タグは記録されません。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源プラグをコンセントから抜き、しばらくしてから再び電源を入れて操作しなおしてください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1〜2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

仕　様

CDレコーダー部

ピックアップ . . . . 3ビーム、半導体レーザー
記録メディア . . . . .音楽用CD-R/CD-RW
録音サンプリング周波数 44.1kHz
周波数特性 . . . . 20Hz~20kHz
(再生時：±1.5dB、録再時：±2.0dB)
S/N比 . . . . .90dB以上(再生時)
90dB以上 (デジタル録再時)
80dB以上 (アナログ録再時)
ダイナミックレンジ . . . . 86dB以上 (再生時)
86dB以上 (デジタル録再時)
78dB以上 (アナログ録再時)
歪率 . . . . 0.05%以下 (再生時)
0.05%以下 (録再時)
アナログ出力 . . . . .2.0V (RCA)

カセットデッキ部

トラック形式 . . . . 4トラック2チャンネル・ステレオ
ヘッド構成 . . . . .録音／再生ヘッド×1（回転リバース式）
消去ヘッド×1
テープタイプ カセットテープC-60
テープ速度 4.76cm/秒
モーター . . . . .DCサーボモーター×1
ピッチコントロール . . . . 約±10% (再生のみ)
ワウ・フラッター . . . . 0.25% (W.RMS)
周波数特性(総合) . . . . .50 ～ 12,000Hz ±3dB：クローム
50 ～ 12,000Hz ±3dB：ノーマル
SN比(総合)
59dB (ドルビー NRオフ、3%THDレベルWTD)
69dB (ドルビー NRオン、5kHz以上)
早巻時間 約150秒 (C-60テープ)
ライン入力(RCA)
0.46V (入力インピーダンス20kΩ以上)
ライン出力(RCA)
0.46V (負荷インピーダンス50kΩ以上)
ヘッドホン出力 10mW/32Ω

PHONO入力

入力感度 . . . . 2.5mV、47kΩ

デジタル音声入力端子

入力サンプリング周波数 . . . . 32kHz、44.1kHz、48kHz

● 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
● 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

USB部

USBメモリー用端子 (USB Aタイプ)
　再生フォーマット MP3
　　対応規格 . . . . MPEG-1/2 Audio Layer-3
　　拡張子 . . . . 「.mp3」
　　サンプリング周波数 . . . . 32、44.1、48kHz
　　ビットレート . . . . 8k ～ 320kbps
　　最大フォルダー数 255
　　最大ファイル数 999
　再生フォーマット WMA
　　対応規格 . . . Windows Media Audio Standard (DRM非対応)
　　拡張子 . . . . 「.wma」
　録音フォーマット(MP3)
　　録音ビットレート . . . . .128 kbps
　　サンプリング周波数 . . . . 44.1 kHz
USB出力端子(USB Bタイプ) . . . . X 1
動作条件
　インターフェース . . . . USB 2.0 FULL SPEED
(12Mbps,USB 1.1相当)
　ドライバー
　　Windows . . . . WDM（Windows標準ドライバー）
　　Mac OS X . . . . . . CoreAudio（Macintosh標準ドライバー）
　動作確認 OS
　　Windows . . . Windows XP、Windows Vista、Windows 7
　　Macintosh . . . . Mac OS X 10.5.8

● 上記条件を満たす標準的なパソコンで動作確認を行っていますが、上記条件を満たすパソコンすべての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

一般

電源 . . . . AC 100V、50-60Hz
消費電力 28W
外形寸法 (幅、高さ、奥行)
435 x 145 x 288mm(突起部を含む)
質量 5.6kg
許容動作温度 . . . . +5℃～+35℃
許容動作湿度 .5%～85% (結露のないこと)
許容保管温度 . . . .−20℃～+55℃

付属品

　リモコン(RC-1283)×1
　リモコン用乾電池(単4)×2
　RCAオーディオケーブル×2
　取扱説明書(本書)×1
　保証書×1

保証とアフターサービス(よくお読みください)

■保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後6年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

49ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
その他：製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：CDレコーダー /カセットデッキ AD-RW900
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として愉しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先(社)私的録音補償金管理協会
Tel:03-3261-3444 Fax:03-3261-3447

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ティアック株式会社

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47　http://www.teac.co.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0312·MA-1727C